



令和7年度

スクール読書チャレンジ運動

実践事例集

佐賀県県民環境部まなび課

目 次

各 賞		受賞校	ページ番号
入賞校	最優秀賞(1校)	佐賀市立嘉瀬小学校	2-7
	優秀賞(2校)	佐賀市立諸富北小学校	8-12
		多久市立 東原庠舎東部校	13-17
		敢闘賞(10校)	佐賀市立 春日北小学校
	唐津市立 湊小学校		23-27
	鳥栖市立 基里中学校		28-32
	武雄市立 橘小学校		33-37
	嬉野市立 嬉野中学校		38-41
	神埼市立 千代田東部小学校		42-46
	神埼市立 千代田西部小学校		47-51
	みやき町立 三根西小学校		52-55
	みやき町立 三根中学校		56-59
	弘学館高等学校		60-63
その他	唐津市立 東唐津小学校	64-66	
	鳥栖市立 鳥栖北小学校	67-68	
	伊万里市立 山代中学校	69-73	
	武雄市立 北方小学校	74-77	
	小城市立 晴田小学校	78-81	
	有田町立 有田中部小学校	82-85	
	有田町立 西有田中学校	86-89	
	太良町立 大浦中学校	90-92	

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立嘉瀬小学校	児童数	271人
-----	-----------	-----	------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	本に恋するわたしたち（読書好き育成プロジェクト）
	取組期間	令和7年(2025年) 4月 1日 ~ 令和7年(2025年) 7年11月30日

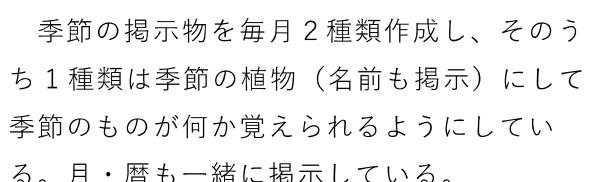
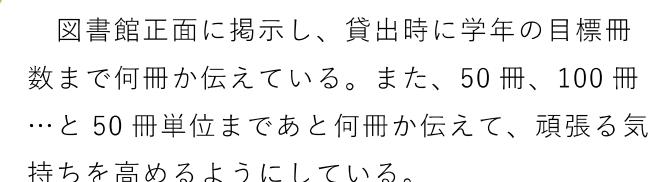
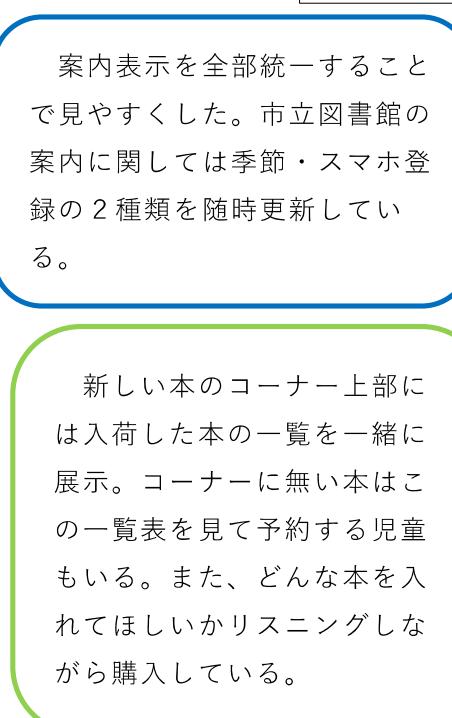
※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	271人	実施日数	244日	読書冊数	39028冊	連携した団体数	53団体
	取組内容 (概要)	<ol style="list-style-type: none">1. 図書館環境を整える<ul style="list-style-type: none">・年間図書館資料購入計画を立てる（3か年計画…今年度は1年目）・面出し配架を積極的に行う・掲示物等のみなおし2. 図書の時間の取り組み<ul style="list-style-type: none">・各教科の関連本や教科書に掲載された本をクラスへ貸出。・図書の授業で読み聞かせ・ラベルの学習・電子図書館の使い方学習3. 図書館に親しむための取り組み<ul style="list-style-type: none">・ポイントカードの導入・オリジナル図書貸出カードのお楽しみを導入・新聞配架の工夫・図書委員会活動4. 関係機関との連携した取り組み5. 夏休みの図書館活用<ul style="list-style-type: none">・夏休みのお楽しみ導入・読書感想文の書き方プリント作成・夏休みの宿題に関連した書籍をレファレンス・展示6. 読み聞かせボランティアとの連携<ul style="list-style-type: none">・朝読の時間に月に2回、読み聞かせを行う（毎月：第2・第4木曜日）						
工夫したこと	<ol style="list-style-type: none">1. 図書館環境を整える<ul style="list-style-type: none">・教科書が今年度より新しくなり、掲載されている本の3分の1程度しか所蔵が無い状態だった。また、所蔵がある本は傷みが激しく再購入の必要があった。今年度より3か年計画で教科書に掲載されている本の所蔵を増やすようにした。・辞書が古く教科書掲載分をカバーできていないと判断し、再購入を行った（クラス人数分）。							

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校がリニューアルしたばかりで書架はきれいだが、全て背表紙のみ見える配架だったため、書架に余裕があるスペースや低い棚の上を展示スペースとし面出しを行い、見やすくした。 ・掲示物が多く乱雑に見えやすいため、配置を決めて案内板を作成した。 <p>2. 図書の授業の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の関連本や新聞の切り抜き、リーフレットを用意し、ブックトラックやコンテナで学級や学年に貸出を行い、教科に深みをもたせた。 ・図書の授業に入ったクラスへ読み聞かせを導入を行い、ブックトーク等も行った。 ・自分が読みたい本がどこにあるのか理解できるよう、ラベルについての学習を何度も行った。 ・電子図書館利用のリーフレットを作成し、図書の授業等で使い方を学習した。 <p>3. 図書館に親しむための取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントカードを発行し、貸出1回につき1ポイント押印。20ポイント毎に貸出券1枚贈呈。 ・500冊借用すると自分でオリジナルの貸出カードを作れるようにした。 ・大人用新聞（2F）と子ども新聞（1F）の場所がばらばらだったため、図書館前に設置した。 ・図書委員会による図書館祭りやその他のイベントを行い、図書館利用を活発化させた。 <p>4. 関係機関との連携した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校や市立図書館と資源を共有することで、授業等に必要な資料を正確かつ確実に用いることで、児童の知識・理解に努めた。 <p>5. 夏休みの図書館活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みは貸出時のポイントを3倍に。夏休みのみ9ポイント毎にくじびき。 ・読書感想文の書き方プリント・原稿用紙を学年に合わせて用意、配布した。 ・夏休みに関連するおはなしの本の展示から宿題に関する本まで展示・レファレンスを行った。 <p>6. 読み聞かせボランティアとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読の時間に月に2回ボランティアさんによる読み聞かせを行っていただいた。
取り組んだ感想	<ul style="list-style-type: none"> ・年々予算が減る中、学校図書館として学習センターの役割を果たしつつ魅力ある図書館にするためには予算配分を考え、学習本と子どもが読みたい本を同時購入。結果、子どもたちからの意見を取り入れつつ教科書掲載本も購入でき、子どもたちからの反応もよかったです。 ・電子図書館の利用が今まで無かったため、今年度は全学年にリーフレットを作成し配布。クラスの要望に応じて図書の時間に使い方を学習した。電子図書館を利用すると本校の貸出冊数が減るので懸念していた。7月時点では前年度比約-2100冊だったが、11月末現在では+881冊まで回復した。これは、ポイントカードや様々なイベント、肯定感が高められるよう声かけや働きかけが功を奏した結果だろう。 ・読み聞かせボランティアはどの学校でも廃止傾向になる。そんな中、月に2回も来てくれることは本当にありがたい。本に触れる機会が増えることで読書意欲が高められているように感じる。 ・本の感想を喜んで書く児童が多く、文字や文章の書き方指導にもつながった。
今後の取組予定 (令和7年 (2025年)12月 ～令和8年 (2026年)3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館として、読書だけでなく学習支援センターの役割や、心のケアが必要な児童に寄り添える第二の保健室のような役割を果たし、図書館や本を好きになる児童を増やしたい。 ・読書をしない児童が読書をするように、文字が読めない児童も楽しめる本を購入する。読書好きな児童はもっと本の楽しさを知るように、イベントだけでなくレファレンスを行いたい。 ・読み聞かせの時間やブックトークの時間を大切にすることで本の世界に入り込めるように読書の楽しさを伝えていきたい。また、選書の仕方や日本十進分類表を覚えることにより、読書だけでなく、学習に利用する本の探し方を理解し自分で学習を深めることができる児童に育てたい。

1. 図書館教育を整える





どくしょの木

100 冊達成する毎にリンゴの色が変わる。児童たちは自分の名前が貼られたり、リンゴの色が変わったりすることで自己肯定感を高めている。(貸出時に何冊か伝えている。)

かせっこ本だなの木

各学年必読図書を設定し、20 冊を借りて読んで感想を書き、司書から合格をもらうと桜の花と名前が掲示される。全部読破した児童は桜に王冠がついている。児童たちは名前が貼されることを励みに頑張っている。



ポスターコーナー

小学図書館ニュースをはじめ、ポスターが届いたらこのコーナーに集約して掲示している。



図書委員会の掲示

図書館内だけでなく、図書室入口にも図書委員の当番と一覧を写真と共に掲示し、責任感を持つと共に、利用者から質問を受けやすくしている。

2. 図書の時間の取り組み

1年1組	1年2組	2年1組	2年2組
ちここのりゅう	おじさんのかさ	とのさまいちねんせい	とのさまいちねんせい
かぶとむしランドセル	ぼくのいえ	かんけり	ちここのりゅう
おだんごパン	いちにちおこめ	ちここのりゅう	フライパンダ
おじさんのかさ		フライパンダ	おむすびさんちのたうえのひ
またおこられてん		キャベツがたべたいのです	おじさんのかさ
くれよんがおわれたとき			またおこられてん
けっこんしき		おじさんのかさ	あててえなせんせい
なんとうひんてん		くれよんがおわれたとき	またおこられてん
おふろ はるる?		ええところ	ええところ
どこいったん?		ちゅーちゅー	どこいったん?

図書の授業前、読み聞かせ・ブックトーク

授業前に読み聞かせを行い、関連本のブックトークを行っている。すぐに貸出につながっている。

佐賀市電子図書館を利用しよう!

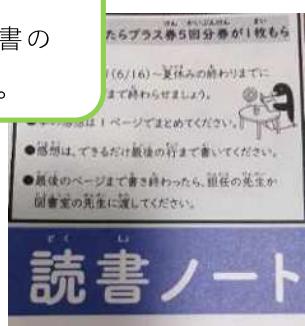
佐賀市立図書館の電子図書館を知っていますか?
みんなが学習で利用しているタブレットで佐賀市立図書館の電子図書館を利用することができます。
利用方法は簡単! 学習用パソコンの児童生徒のログインID、パスワードを入力するだけです。
①佐賀市立図書館のホームページを開きます。
(ショートカットの作成やブックマークをすると便利です。)

電子図書館のリーフレット作成・配布

今年度の年間学習計画の中に電子図書館利用をカリキュラムに入れてもらい学習。学習後、電子図書館大利用ベキストラクチャーリリース。

必読図書・読書ノート

それぞれ感想を書いたら提出。どちらも司書の合格が必要。文章力が上がるよう添削した。



毎月担任に配布する貸出冊数記録

月・累計冊数の貸出冊数記録を配布。目標冊数に達すると右に○が。クラスの達成率と0冊児童に指導依頼を記載している。

3. 図書館に親しむための取り組み



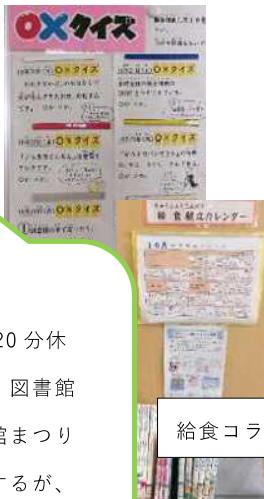
ポイントカード

1回貸出につき（1日1回まで）1ポイント押印。Pに来たらプラス券をプレゼント。励みになっている。



新聞

同じ階の同じ場所に展示することで読んでいる児童が増えた。また、受験に使える記事も紹介した。



くじ引き



図書館まつり全体の様子



図書館まつりイベント

図書委員会を中心とし、イベントを開催。20分休み、昼休みともに貸出が多く、大変賑わった。図書館まつりでもらったプラス券により、通常図書館まつり終了後の体育大会練習期間は貸出冊数が低下するが、むしろ増加した。

4. 関係機関との連携した取り組み、5. 夏休みの図書館活用

R6年度資源共有利用年間340冊→R7年度資源共有利用11月末まで319冊利用。この調子だと今年度は前年度利用を上回ると考えられる。(右下借用本展示の様子写真)

夏休みは市立図書館の本を置いていた場所に夏休みの宿題関連本を同じブックトラックに集めて借用しやすく案内板も作成した。また、通常利用しているポイントカードを夏休みはスタンプの色を換えて押印。9ポイント毎にくじ引きを行い、夏休みも楽しみにしている児童が増え、貸出が増えた。

6. 読み聞かせボランティアとの連携



平和学習

平和学習ではボランティアさんに
よる読み聞かせ
を。パワーポイントを利用した。



市立図書館借用本（自由に借用可能に）

お礼状募集

12月のおはなし会で
お渡しするお手紙

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立諸富北小学校	児童数 219人
-----	------------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	図書館へ行こう！ 本との出会いを楽しもう！
	取組期間	令和7年(2025年)4月7日 ~ 令和7年(2025年)11月30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	219人	実施日数	238日	読書冊数	23316冊	連携した団体数	4団体	
	取組内容(概要)	<p>◆本への興味関心を広げる図書館環境の整備 ◆読書活動を充実させるための取組 ◆児童が主体的に取り組む図書委員会活動 ◆家庭や地域との連携した取組</p>							
評価	工夫したこと	<p>◆本への興味関心を広げる図書館環境の整備 ①環境整備 本を分類番号順に配架し、一目でわかる表示を設置することで、本を探しやすく、整理しやすい環境を整えている。また、新刊図書コーナー、市立図書館の本コーナー、過去の課題図書コーナー等、児童の興味を引くコーナーを設置している。図書委員おすすめの本の紹介コーナーを図書室に設け、読書の幅を広げるための取組をしている。4月に諸富出身の真島智茂氏の記念文庫が新たに設置され、蔵書冊数も増加した。 ②掲示コーナーの充実 季節や学校行事に合わせた掲示を行い、明るく楽しい図書室づくりを行っている。佐賀市立図書館・諸富館のコーナーや読書に関する情報を紹介するコーナーを設置し、児童の読書の幅を広げるきっかけを作っている。今年度は「大阪万博」開催に関連付けたクイズコーナーや世界の国について知識を広げるコーナーを設置し、児童の興味関心を広げた。 ③読書ルームの設置 図書館に隣接している空き教室を活用して「読書ルーム」として整備した。静かに本を読んだり、「昼読み会」や「図書館祭り」のイベント等を行ったり、国語科の言語活動で図書資料を活用して完成させた作品を展示したりするなど、読書に関連する様々な活動を行う場所として活用している。</p> <p>◆読書活動を充実させるための取組 ①「読書ノート」を積極的に活用 年度初めに「読書ノート」の使い方を全校児童に紹介し、活用方法の共通理解を図った。読書ノートへの記入を図書の時間に設けたり、宿題で取り組んだりと全学年積極的に活用している。1冊すべて記入した児童には表彰するシステムを導入し、児童の意欲向上を図っている。また、「読書ノートコーナー」を設け、児童が主体的に読書ノートの活用を楽しむことができるようになっている。2、3冊目に取り組み、読書ノートへの記入が習慣となっている児童も多く、お手本となる児童の読書ノートを掲示したことで、表現方法の工夫を高めたり、より質の高い読書ノート作りを目指したりすることに繋がっている。 ②「読書タイム」を設定 朝の帯活動として「読書タイム」を設定し、日常的に読書に取り組ませている。 ③家庭での読書時間を設定 週末の家庭学習や宿題を児童の発達段階に応じて工夫し、毎週家庭で読書する時間を設けることを習慣にし、取り組ませている。 ④読書活動の共通理解の徹底 全児童・職員が読書活動の共通理解をするために、年度初めに全学級オリエンテーションを行ったり、職員に対して読書活動資料を作成し配布したりした。また、月に一度、児童の図書館利用状況一覧を全担任に配布し、読書指導に生かしている。今年度は2学期初めの給食時間にTeamsを活用して、全児童に向けて本校の読書活動について再度アンケートしたり、「にじいろ50選」達成者や多読者、「読書ノート」達成者状況を伝えたりして、意識向上を図った。 ⑤学年ごとに読書年間目標を新たに設定 昨年度までは全学年一律で読書年間目標が100冊であったため、目標達成するために、すぐに読める絵本ばかりを選んだり、まだ読み終わっていないのに返却して次の本を借りたりする児童の姿が見られ、課題となっていた。特に高学年の児童にとっては、にじいろ50選の本も、ページ数が多くなり、本の内容が難しかったりするものもあり、負担が大きい目標設定となっていた。年度初めに昨年度の反省を生かして部会で検討し、今年度5・6年生は60冊、3・4年生は80冊、1・2年生は100冊とした。 ⑥「北っこにじいろ50選」 各学年の児童に読んでほしい本を「北っこにじいろ50選」として選び、読書を勧めている。10冊読み終わるごとに図書室でくじ引きができる仕組みにし、楽しみながら50冊を読み進められるようにした。「50選」の完読者は給食時の放送で紹介され、</p>							

	<p>校長から表彰されることになっている。今年度も「にじいろ50選」を達成した児童を、図書室入り口近くの廊下に写真を貼り、児童の達成感と意欲を高めてきた。</p> <p>⑦「北っこどくしょの木」コーナー 図書室の壁面にコーナーを設置している。100冊、200冊、300冊ごとの花や実がなる仕掛けになっていて、児童達の意欲付けとなっている。</p> <p>⑧長期休業中の図書館利用を促進 夏休み・冬休みには長期休業中の図書室の開館日が一目で分かり、読書記録を残すことができる「読書カレンダー」を配付し活用させている。</p> <p>⑨様々な集会で絵本を活用した講話を実施 「全校昼会」や「平和集会」等で絵本の読み聞かせや絵本を活用した講話を行った。取り扱った絵本は、図書館でも借りて読むことができるよう、専用コーナーを設け、児童が絵本を身近に手にする環境を整えた。</p> <p>⑩図書館を活用した指導の充実</p> <p>国語辞典・漢字辞典のクラス貸し出しを行い、学習活動に活用した。授業と連携した教科学習関連図書を積極的に活用し、学習を行った。</p> <p>◆児童が主体的に取り組む図書委員会活動</p> <p>⑪図書館祭り 6月と11月に図書委員の児童が企画・運営する図書館まつりを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月のイベント→スタンプカード、おりがみ教室、クイズ、おはなしオルゴールさんによる読み聞かせ、しおり作り、クロスワード、図書委員会による読み聞かせ ・11月のイベント→スタンプカード、読書郵便、クイズ、工作（こま）、宝さがし、校長先生による読み聞かせ、しおり作り 等 <p>⑫児童集会 9月の児童集会で全校児童に向けて、図書館利用のルールや楽しいイベント等の紹介をクイズ形式で行った。</p> <p>⑬おすすめの本の紹介 図書委員おすすめの本の紹介コーナーを図書室に設け、読書の幅を広げるための取り組みをしている。大変好評で、おすすめの本を借りる児童が多い。</p> <p>⑭校内放送 定期的にイベントの紹介や読書活動を啓発する内容の放送を給食時に行っている。</p> <p>◆家庭や地域との連携した取組</p> <p>⑮親子読書「ぽかぽか読書」を実施 月に一度、家庭で行うノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデーに合わせて親子読書「ぽかぽか読書」の取り組みを行っている。親子で本を読んだり、感想を伝え合ったりして、ワークシートに記入し交流を楽しんでいる。</p> <p>⑯読み聞かせボランティアによる読み聞かせ 年間を通して、定期的に読み聞かせボランティア「お話オルゴール」の方に読み聞かせに来ていただいている。毎月第1水曜日の朝の時間は全学級で読み聞かせ、毎月第4水曜日は、読書ルームでの「昼読み会」を実施していただいている。</p> <p>「昼読み会」への参加を促進するために、スタンプラリーを導入し、参加した回数によって景品がもらえる仕組みをとっている。</p> <p>⑰佐賀市立図書館・分館の諸富館とのコラボ企画 佐賀市立図書館・分館の諸富館と連携して、読書活動が充実するようにしている。年2回佐賀市立図書館から団体貸し出しをして、学校にない本の貸し出しを児童に行った。近くにある市立図書館分館の諸富館のイベントは、掲示板や放送等で積極的に紹介し参加を呼びかけた。今年度は「佐賀市電子図書館システム」の活用を推進するために、新たに『佐賀市電子図書館システム使用方法ガイド』を作成し、4~6年生に配布、指導を行った。さらに、新設された諸富公民館のこけら落としに合わせて、事前に諸富館の様子を全校児童に紹介したり、コラボ企画「図書館に行こう！」を実施したりした。コラボ企画では、図書館へ向かう廊下や図書館の中にイラストなどを隠して見つけるクイズを出す仕掛けを行ったことで、図書館に足を運ぶ児童が増加し、図書館がとても賑わった。新しい諸富館には「にじいろ50選」コーナーも設けていただき、児童は学校の図書館だけでなく、地域の図書館でも良書を読む機会を広げることに繋がった。</p> <p>⑱諸富給食センターとの絵本コラボ給食 今年度初めて、コラボ給食を実現することができた。コラボ給食日に合わせて、事前にコラボ絵本コーナーを設置したり、クイズイベントを開催したりして、児童の興味関心を広げる工夫を行った。コラボ給食は児童達に大変好評で今後も継続していくことが決定した。</p> <p>⑲「図書館だより」「学校だより」等で読書活動を啓発 毎月発行している「図書館だより」で「にじいろ50選」達成者や100冊、200冊達成者の紹介を行っている。保護者へ向けて、「諸富北小学力向上だより」「学校だより」「学級通信」等で、音読や読書が子ども達に与える良い効果等を情報発信し、読書活動の啓発を図っている。</p>
取り組んだ感想	<p>読書活動がマンネリ化している実態を踏まえ、今年度は改善すべき点を検討して変更したり、新しい様々なイベントを企画・実行したりしたことで、図書館を楽しい場所と感じ、読書をすることが日常の習慣となった児童を増やすことができた。地域との連携強化を目指した今年度の取組により、本校の図書館だけでなく、地域の図書館を利用する児童が増え、本との出会いの場も広げることができた。その結果、児童アンケートで「進んで読書をしている」と回答した児童は88%、本の年間貸し出し冊数を達成している児童は93%で昨年度より改善することができ効果を実感している。</p>
今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ~令和8年(2026年)3月)	<p>児童が「図書館に行きたい!」「新しい本に出会いたい!」と思えるよう、さらに読書活動の充実を目指して、継続した取組を行っていく。最終的には年度末に、図書室での本の貸し出し年間目標を達成した人が95%以上になることを目指していく。3学期は、今年度の取組を振り返り、来年度の読書活動がさらに充実するよう計画を立てる。</p>

添付資料

◆本への興味関心を広げる図書館環境の整備

①環境整備



↑季節ごとに児童の興味を引く飾りを掲示し、楽しい雰囲気作りをしている。



↑今年度新しく増設した記念文庫↑



←一目でわかる表示を設置することで、本を探しやすく、整理しやすい環境を整えている。また、学校行事や季節のイベントにちなんだ本のコーナーも数多く設置し、児童の読書の幅を広げることができた。

②読書ルーム



↑読書ルームには、机椅子に加えて座敷コーナーもあり、くつろいで本を読む環境が整っている。様々な本も置いてあり、いつでも本を手にすることができる。国語・社会科などの調べ学習で利用したり、読書と関連した言語活動で作成した作品を展示したりと多岐にわたって活用している。

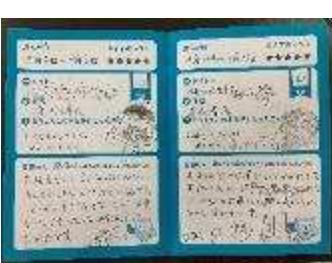
③掲示コーナー



←児童が図書室に足を運ぶ仕掛けとして、「大阪万博」開催に関連付けたクイズコーナーや世界の国について知識を広げるコーナーを設置。ミックミヤククイズは大変人気で、来館者数の増加に繋がった。

◆読書活動を充実させるための取り組み

①読書ノートの活用の推進



←全職員で読書ノートの活用を推進していくために、資料を作成し、共通理解の場を設けたことで、一貫した指導に繋がった。

↑児童が読書ノートに記入している様子。習慣となっている児童が増え、効果を実感している。



↑ノートを書き終えた児童には、図書館前の廊下に名前を掲示したり、表彰したりして、自己肯定感の向上を図った。

↑読書ノートコーナーを新設し、児童が主体的にノートの活用を楽しむことができるようしている。

↑お手本となるノートを掲示したことで、児童の選書の助けとなったり、表現方法の工夫を高めたりすることに繋がっている。

②北っこにじいろ50選



↑にじいろ50選の一覧表。読んだ本は、3段階評価し、担任にチェックしてもらうシステムになっている。



↑10冊読み終わるたびに図書室でくじ引きができる仕組みになっている。もう一冊貸し出し券、手作りしおり、ノート等がもらえたり、ガチャガチャが引けたりと児童は楽しみながら50冊を読み進めている。

③北っこどくしょの木



↑100冊、200冊、300冊ごとの花や実がなる仕掛けになっている。3月には満開となるよう活動を推進していきたい。



↑表彰の様子。50選を達成した児童は、校内放送で紹介され、校長より賞状と記念品を授与される



↑50選達成者。毎年恒例となっており、写真が貼られるなどを目標にして取り組んでいる児童も多い。



↑定期的にTeamsを活用して、読書活動の啓発や達成状況等を紹介し、児童の意欲を高めた。

④読書活動の啓発

⑤本を活用した講話



←講話で活用した本は、図書館でも紹介し、選書の幅が広がるよう工夫した。

◆児童が主体的に取り組む図書委員会活動

①おすすめの本の紹介



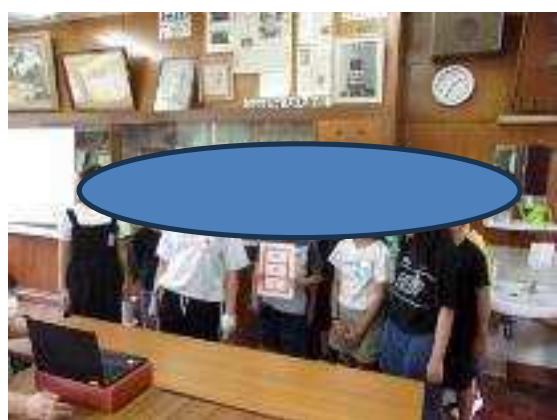
↑定期的に図書委員会の児童が自分のおすすめの本の紹介カードを作成し、本と一緒に掲示している。友達が紹介する本に興味を示す児童が多く、新しい本との出会いを楽しんでいる。

②委員会の掲示板



↑委員会の活動の様子やイベントの情報を職員室横の掲示板を活用して、積極的に宣伝した。また、給食時には、イベントの紹介に加えて、読書活動を啓発する内容の放送を行い、読書活動の推進を積極的に行っている。

③児童集会



↑リモート形式で児童集会を行っている様子。全校児童に「図書館に行きたい!」「本を読みたい!」と思ってもらうために、自分たちで楽しいクイズを考えて発表したり、イベントを紹介したりした。

④図書館祭り

6月と11月に図書委員の児童が主体的となって企画・運営を行った。



←校長先生による読み聞かせの様子。読み聞かせした本は図書館にコーナーを作り、児童の興味関心を広げるようした。

↑事前に図書館祭りのチラシを全学級や校内掲示板に掲示したり、内容を放送したりして、児童の興味関心を高める工夫を行った。図書委員会主体のイベントに加えて、スタンプラリーも行い、図書館利用の促進も図った。



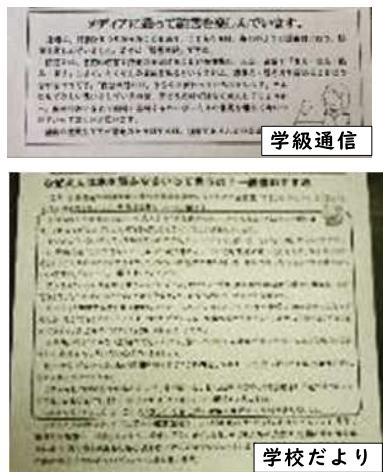
↑図書委員会の児童が中心となってイベントを行っている様子。今年度もさまざまな楽しいイベントを企画したことで、期間中はたくさんの児童が図書館を訪れ、大変賑わった。また児童が主体的に活動できたことで、達成感も高く、充実感を味わわせることにも繋がった。今後の活動にも意欲を見せていく。

◆家庭や地域との連携した取り組み ①読み聞かせボランティアによる読み聞かせ



←読み聞かせボランティア「お話オルゴール」の方によるお話をされる様子。今年度は、継続して「昼読み会」へ参加する児童を増やす仕掛けとしてスタンプラリーを導入した。

②家庭や地域へ読書活動の啓発



↑→今年度は、図書館だけでなく、学校などでも読書活動の啓発を行い、家庭や地域への協力をお願いすることができた。

学校だより

③佐賀市立図書館・分館の諸富館とのコラボ企画



←Teamsを活用して、給食時に新諸富館の様子やイベントの紹介をしている様子。イベントには、本校の児童が多数参加し、諸富館の存在を周知させることに繋がった。

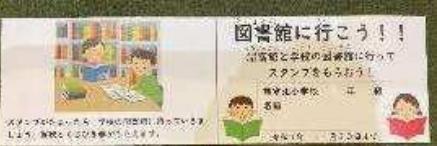
④佐賀市電子図書館システム使用方法ガイド



←本校の児童は電子図書館システムの利用が少ないという実態を受け、使用方法ガイドを作成し、4~6年生に配布して、指導を行った。来年度は、最初のオリエンテーションで紹介を行いたい。



→諸富館に新設いただいた「にじいろ50選コーナー」。児童は学校だけでなく、地域の図書館でも良書に触れる機会を広げることができた。



↑→諸富館の利用も促進するために、コラボ企画を実施。図書館に行き、スタンプがたまつた児童には、図書館マスター認定証を授与し、意欲を高めた。今後もコラボ企画を実施し、地域と連携して読書活動を推進していきたい。



⑤諸富給食センターとのコラボ企画

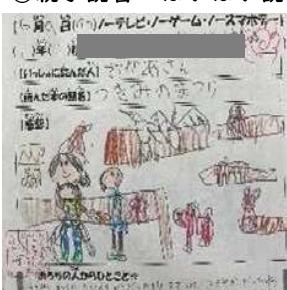


↑今年度初めてコラボ給食を2回実施することができた。児童がコラボする絵本への興味を高めるために、特設コーナーを作りたくさんの児童が本を手にすることができるよう工夫した。またクイズ企画も実施したことでき、図書館来館者も増やすことができた。



↑コラボしたメニューは、大変好評だったため、12月に1回。3学期も継続していくことになった。

⑥親子読書「ばかばか読書」



↑児童が書いたワークシート。毎月、親子で本を読んだり、兄弟で読み聞かせを行ったり、感想を伝え合ったりと様々な形で交流を深め、読書時間を楽しんでいる。

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	多久市立東原庠舎東部校	児童数 260人
-----	-------------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	図書館マルシェへ行こう～フェアに参加してスターをGet!～
	取組期間	令和7年(2025年)4月8日～令和7年(2025年)11月30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	260人	実施日数	237日	読書冊数	30,032冊	連携した団体数	7団体
	取組内容(概要)	<p>1. グリーン図書館マルシェの開催 「〇〇フェア」と題し、テーマを決めて2週間ごとに6つの特集を組み、フェアコーナーの本を借りた人にはマルシェカードにスターをもらえる取組。 スターをGetしたら手作りのプレゼントを贈呈。</p> <p>2. 図書館まつりの開催(年2回) 6月…学習委員会が企画運営を行ない開催。 ・bingo大会→1～3年生はテーマが書かれた本をかりてbingo、 4～9年生はbingoがそろったらくじ引き。 ・学習委員会おすすめ本の展示。 ・リクエストBOXの設置。 ・多久市立図書館によるお話会。</p> <p>11月…秋の読書週間に合わせての開催。 ・多久市立図書館によるお話会。 ・絵本作家はせがわたくしさんによる読み聞かせ。 ・学習委員によるビブリオバトル。 ・貸出冊数対決→期間中に本を借りるともらえるシールを貼ってクラスのツリーを完成させる。</p> <p>3. 東部校グリーン図書館で継続している取組</p> <p>①図書館独自の取組 図書館オリエンテーション…4月に全学年で実施。 長期休業前にも図書の貸出を授業中全クラスに行う。 テーマ展示…季節ごとに特集を組み、展示コーナーを作成。 環境整備…図書館前掲示板に、貸出冊数のグラフや季節ごと飾りなどを掲示。 読書の星…前期課程100冊、後期課程50冊本をかりる毎に、個人カードに星を貼っている。</p>						

	<p>②他団体との連携</p> <p>多久市立図書館との連携…市立図書館コーナーを設置。ボードゲーム大会の開催。 お話し等も定期的に行ってもらつた。</p> <p>放課後児童クラブ「なかよしクラブ」との連携 …長期休業中の開館日に図書館利用。</p> <p>読み語りボランティアグループ「サザエさんクラブ」による読み語り活動 …毎月第2火曜日の朝、1年生～6年生に実施。</p> <p>多久ロータリークラブからの図書の寄贈 …毎年、命に関する本を寄贈していただいている。多久市のHPでも紹介。</p>
工夫したこと	<p>1.図書館マルシェ 2学期の読書の秋にちなんでテーマを決め、○○フェアを開催。マルシェカードを用意し、フェア毎にスターのシールを貼っていく形にしたところ、スターを集めるためにフェアを楽しみにして来館してくれた。また、なかなか借りられない図書をフェア本に加えることで、手に取るきっかけを作ることができた。</p> <p>2.図書館まつり 年に2回開催している図書館まつりは、2回とも多久市立図書館の司書の方々にお話しを行ってもらい、学校図書館にはない大型絵本やパネルシアターを見ることができ、多久市立図書館のキャラクターである読谷雅男の来館もあり盛り上がった。学習委員会主催の第1回では、今回リクエストBOXを設置したことにより、児童生徒の興味関心をリアルに知ることができ、図書購入や資料の充実に役立った。第2回では、絵本作家としてデビューされた東多久町在住のはせがわたくしさんにも来校いただき、自作の絵本「ぼぼろとロポポ」を読み聞かせしていただいた。絵本を作成することになった経緯や子供たちへの思いもお伝えしていただけて良かった。初のビブリオバトルでは、ビブリオバトルがどういうものかを分かりやすく説明しながら行った。チャンプ本が決まる時はバトラーと参加者みんなで盛り上がった。</p> <p>3.常時活動 今年度は季節の掲示物の中に本の紹介を入れ、目に留めてもらい興味をもってもらえるような掲示や特集を行うことができた。また、多久市内の他2校とも連携をとりながら、情報交換を行ない、他校の良い所もお互い取り入れながら環境整備の工夫ができた。</p>
取り組んだ感想	<p>本校は、多久市内でも図書館利用や貸出冊数が多い学校である。そのため、マンネリ化している読書活動に新しいことを取り入れたいと思い、マルシェを開催しブックフェアを行なった。市立図書館や読み語りボランティアさんとも連携し、よりたくさんの方々から本の紹介や、読み聞かせをしていただいた。その甲斐があって、来館者が停滞することもなく今年度も児童生徒へ本の楽しさや読書の大切さを伝えることができた。学校図書館で様々なジャンルの本に出会うことができている。</p>
今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月～令和8年(2026年)3月)	<p>グリーン図書館マルシェは11月で終了したが、テーマ展示や環境整備、読書の星の取組は3月まで継続し、引き続き多くの本と出会えるようにしていく。また、学校図書館司書がビブリオバトルの講習会に参加をしたこともあり、今後、中学生のビブリオバトルに参加できるくらいになるよう、小学校世代の児童にもビブリオバトルを浸透させていきたい。情報共有を行ない、教職員も巻き込みながら学校全体で東部校の児童生徒のさらなる読書活動の活性化を図っていく。</p>

【 取り組み内容 】

1. グリーン図書館マルシェ



スポーツの秋フェア



芸術の秋フェア



食欲の秋フェア



食欲の秋フェア スイーツ編



未読本フェア



マンガフェア



9月から11月まで6つのフェアを開催。このコーナーの本を借りるとマルシェカードにスターをもらいます。全部のスターをGetできた人には手作りプレゼントを贈呈しました。



2. 図書館まつり

6月の図書館まつり



bingo大会



多久市立図書館おはなし会



リクエストBOX設置
たくさんのリクエスト本
が入っていました。



- ・ ビンゴ大会
- ・ そろったらくじ引き
- ・ 多久市立図書館おはなし会
- ・ リクエストBOXの設置
- ・ 学習委員会おすすめ本の展示

学習委員会主催のイベントでした。
たくさんの児童生徒が参加してくれました。

11月の図書館まつり



多久市立図書館おはなし会



絵本作家 はせがわたくしさんによる、読み聞かせ

- ・多久市立図書館おはなし会
- ・はせがわたくしさん読み聞かせ
- ・学習委員によるビブリオバトル
- ・貸出冊数対決！

多久市立図書館の司書の方々、はせがわさんによる絵本などの読み聞かせは新鮮で楽しそうに参加していました。

ツリーは冊数が目にみえて分かるので盛り上がりいました。



貸出冊数対決！

図書館まつり期間中に本を借りるとクラスのツリーにシールが貼れます。どのクラスが緑いっぱいになるかな！？



学習委員会によるビブリオバトル

5年生から9年生の学習委員5人がバトラーとしてビブリオバトルに挑戦。どの本も読んでみたくなりました。

3-① 図書館独自の取組



図書館に来たくなるよう、図書館前の掲示板や館内の環境整備にも力を入れました。季節ごとに館内に展示コーナーを作成し、特集を組みました。



4月に図書館オリエンテーション、長期休業期間前にも読書感想文の指導と図書の貸出を全学年に実施しました。



前期課程100冊、後期課程50冊達成すると、個人カードに星☆を貼ります。

3-② 他団体との連携



昨年度に引き続き多久市立図書館コーナーを設置しています。
毎月入れ替えです。
ボードゲームも定期的に体験させてもらっています。

多久ロータリークラブ様より、
毎年本の寄贈をいただいています。
学習委員会とお礼の手紙を送りました。

読み語りボランティアグループ「サザエさんクラブ」による月1回朝の読み語りを行ってもらっています。

多久市目標冊数

前期課程(1~6年生)→100冊
後期課程(7~9年生)→30冊

東部校目標冊数

1~2年生 → 150冊
3~4年生 → 130冊
5~6年生 → 100冊
7~9年生 → 30冊

東部校平均貸出冊数

前期課程(1~6年生) → 152.5 冊
後期課程(7~9年生) → 46.2 冊
11/28 現在

マルシェの開催や図書館まつり等、様々な取り組みの結果、11月の段階で、全体の平均貸出冊数は目標冊数を超えることができています。未貸出は一人もいません。個人でみると、まだ貸出冊数が多くない児童生徒もいるので、3月まで常時活動を継続し、読書活動の活性化に尽力します。

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立春日北小学校	児童数 523人
-----	------------	----------

I. 取組前の宣言内容

宣言	目標	本にたくさんふれて楽しもう
	取組期間	令和7年(2025年)4月7日～令和7年(2025年)11月28日

II. 取組後の評価

評価	取組人数	523人	実施日数	238日	読書冊数	56755冊	連携した団体数	0団体	
	取組内容(概要)								
	1本にふれる環境づくり 2本を楽しむきっかけづくり 3本との出会いを生む図書体のイベントの実施								
工夫したこと	1本にふれる環境づくり ① 図書館内の掲示を新しく作り替え、入り口の飾りを季節ごとに替えることで、明るく、入りたくなる図書室になるように心がけた。【①】 ② 様々なジャンルの本を手に入れるように工夫した。図書室内で季節に応じた本を飾るとともに、時事問題に応じた特集も組んだ。【②】 ③ 図書館の廊下に「どくしょの木」のコーナーを設けた。貸出冊数が増えるごとに名前を書いたリンゴの実の色が変わるようにしてある掲示物で、自分の貸出冊数がどれだけなのかを誰もが把握できるようにした。今年度から、1年生は100冊までは、授業時にリンゴの実のカードをみんなの前で渡すことで、このカードを貼ることを習慣付けるとともに、本をたくさん借りたいという動機付けることができた。また、今年度は、リンゴの実のカードと一緒にもらう券を校長室へ持つて行くと、校長先生からごほうびシールを貰うことができるよう実施した。校長先生本人から直接褒めてもらうことを楽しみにしていた児童も多くいた。【③】		2本を楽しむきっかけづくり ① 春日北小学校では、家庭学習の定着を目指して、1週間分の家庭学習の様子を記録する「北っ子がんばろう週間」を行っている。図書館では、この「北っ子がんばろう週間」に合わせて「家読週間」を行った。家族と一緒に本を読んだり、おすすめの本を紹介したりするプリントを配布し、1週間分を記録して提出してもらった。家で家族と共に読書をし、本について家庭で話す機会を設けることで、自宅でも本を読むきっかけとなった。【④】 ② 国語科や社会科などの調べ学習で、図書館の本を資料として授業中に作成したりーフレットや作品を図書館内に掲示した。様々な学習の成果を見ることで、図書館に来る児童の、いろいろな本に対する興味・関心を高めることができた。【⑤】						

	<p>3本との出会いを生む図書館主体のイベントの実施</p> <p>① 宝箱の中に本を入れ、ヒントの言葉と手で触れた重さをたよりに、箱の中に何冊本が入つていつかを当てるイベントを学期に1回行った。誰もが簡単に参加できることから、1年生から6年生まで、全学年で人気があり、異学年同士で話し合って答えを探す光景も見られた。図書室へ出向くきっかけづくりとなった。【⑥】</p> <p>② 宝探しのように図書館の中に隠された絵や言葉を探す、「としょかんみつけ！」を企画した。利用が少ない本棚に隠すことで、普段は手に取らない本に関心を持つきっかけとなるように工夫した【⑦】</p> <p>③ 図書館のマスコットキャラクターを決めるコンクールを行つた。児童にマスコットキャラクターを募ると、29作品の応募があり、この中から図書館に来館した児童に投票してもらいマスコットキャラクターを決定した。どの作品が選ばれるか関心が高く、全校児童の図書館への関心を高めることができた。結果の集計や決定したキャラクターをポスターにして、図書館や児童玄関など全校児童が目に付く場所に掲示する活動を図書委員が主体的に行つた。このキャラクターカードを「としょかんまつり」の景品として使用し、「としょかんまつり」への関心も高めることができた。【⑧】</p> <p>④ 図書委員が「推し本総選挙」を企画した。図書館内で最も好きな本を図書館に来館した児童に投票してもらい、図書委員が集計し、全校のベスト3と各学年の1位を発表した。結果として意外な本が選ばれた学年もあった。投票した児童は330人にもおよび本への関心を高めることができた。【⑨】</p>
取り組んだ感想	<ul style="list-style-type: none"> ・本と親しむ経験をより多くの児童に体験してほしいという願いを込め、今年度も、多くの本と出会える場を工夫した。イベントで紹介した本や、図書館内に展示した本、読み聞かせをした本には、児童はすぐに興味をもち、貸出につながっていた。また、レファレンスに力を入れることで、本を紹介してほしいと気軽に申し出る児童が増えた。「この本どこにあります?」と司書や図書委員に尋ねる姿が多く見られた。 ・今年度は「マスコットキャラクターコンクール」や「としょかんみつけ!」「推し本総選挙」等のイベントで、今までと違った方向から図書館のPRをすることができた。様々な取り組みの導入により、「図書館って楽しい」と感じて、興味を持って来館する児童が増えたと実感している。その成果が、貸出総数とそれぞれの学年の平均貸出冊数とともに昨年の令和6年度よりも増加している結果に現れていた。【⑩】 ・令和6年度から、児童が図書館へ来館して実際に本を手に取る機会を増やすことが、より多くの児童に読書に親しむためには重要だと考え、様々な活動に取り組んでいる。この成果により4月から11月までの貸出総数では、令和6年度は令和5年度よりも7000冊以上も増加させることができた。今年度はこれをさらに増やすことができた。【⑩】
今後の取組予定 (令和7年(2025年) 12月～令和8年 (2026年)3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも児童とのコミュニケーションを大切にし、イベントや展示を通して、児童が安心して読書に親しむことができる図書館を心掛け、児童の成長につなげていきたい。今後は、読書内容という点にも重点をおいて、子どもたちの多様性を尊重しながら、すべての子どもが読書を楽しめる図書館の在り方を模索していきたい。

(1) 本にたくさんふれる環境づくり

① 図書館内の掲示



←としょかんの壁面を作り替え、図書館の雰囲気が明るくなかった。【①】

入り口は季節に合わせて飾り付けをした。 →
思わず立ち寄りたくなる図書館を目指した。【①】



② 本の特集

特集コーナーの本には星のマークを貼り、ラッキーブックとして、借りるごとにスタンプを押している。
スタンプが溜まると貸出券をプレゼントしている。【②】



←季節の本は昨年同様、毎月紹介している。【②】

ノーベル賞受賞など、その時々の話題になった出来事に関連した特集を行った。【②】 →



←図書委員の
おすす
めの本



←先生の
おすす
めの本

↑昨年も人気があった「としょいいんのおすすめの本」と「先生のおすすめの本」は、としょかんまつりに合わせて行った。今年も人気があり、いつも貸し出しがされていた。

③リンゴの木



←【どくしょの木】貸出数
30冊、50冊、100冊、
150冊、200冊、300
冊、400冊、500冊と
増えるごとにりんごの色
が変わる。昨年度は700
冊まで増えた。【③】

(2) 本を楽しむきっかけづくり

① 家読



←家族と一緒に読書を楽しむように
取り組んでいます。みんながどちらかの本を読んであげてもいいですね。
実施した場合は、他の児童が本を手に取ることを許します。今後「どの本の面白さを語る
よ」など、「どの本が面白いか」などなどです。【④】

② 授業のリーフレットの掲示



←図書館の中
に掲示するこ
とで他学年の
子どもたちも
興味を持って
見ていた。【⑤】

(3) 本との出会いを生む図書館主体のイベントの実施

① 宝箱の中の本の冊数を当てる



いろいろな学年の子どもたち
が協力して、何冊入っているか
考えていた。【⑥】 →



↑宝箱の形の箱を準備したの
で、どの学年も興味津々で参
加していた。【⑥】



←ヒントをもとに、本を
持って来て重さから
冊数を考えている児
童もいた。【⑥】

② としょかんみつけ



←かくされ
た絵を探
す子ども
たち。【⑦】



←みつけの問
題は図書委
員が考えた。
【⑦】

③キャラクターコンクール



↑ 29作品の応募があった。【⑧】

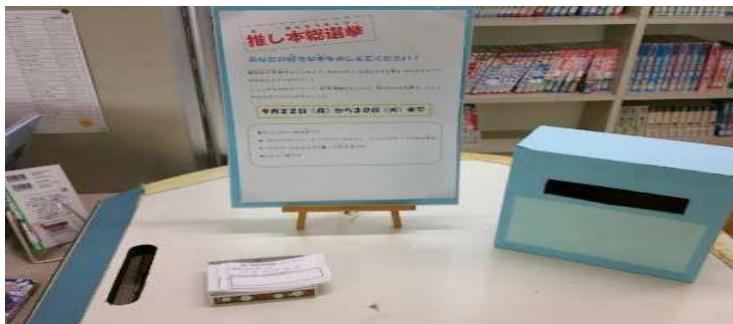


← 255名もの児童が投票した。【⑧】

えらばれたキャラクターは図書館や児童玄関に掲示し、貸出券の絵として活用した。とても人気があった。【⑧】



④推し本総選挙



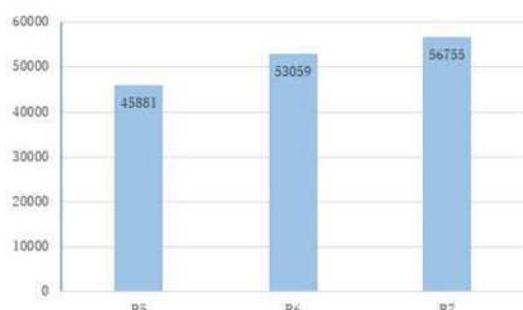
← 330名もの児童が投票した。

図書委員会で集計し、学年の1位と全校のベスト3位までを発表した。【⑨】

4月から11月までの貸出総数と平均冊数の比較

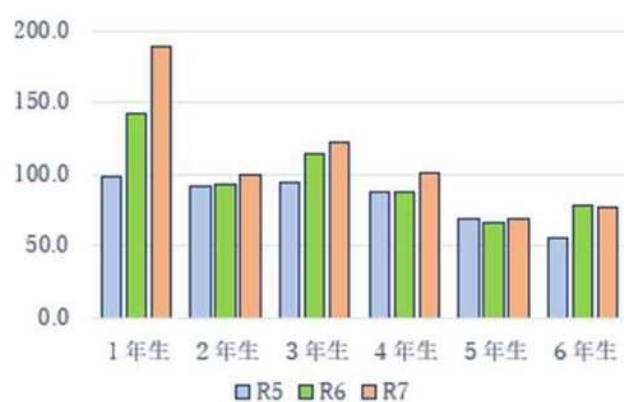
【貸出総数】【⑩】

	R5	R6	R7
総数	45881	53039	56755



【平均冊数】【⑩】

	R5	R6	R7
1年生	98.4	142.5	189.0
2年生	92.1	93.5	100.1
3年生	94.7	114.2	123.0
4年生	88.4	87.2	100.7
5年生	69.0	65.7	69.4
6年生	55.6	78.3	76.5
合計	82.4	96.1	108.5



令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	唐津市立湊小学校	児童数 126人
-----	----------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	本を好きになって、読書を楽しもう
	取組期間	令和7年(2025年) 4月 1日 ~ 令和7年(2025年) 年 11月 30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	126人	実施日数	244日	読書冊数	9,692冊	連携した団体数	3団体
	本を好きになる環境づくり							

評価	取組内容(概要)	本を好きになる環境づくり
----	----------	--------------

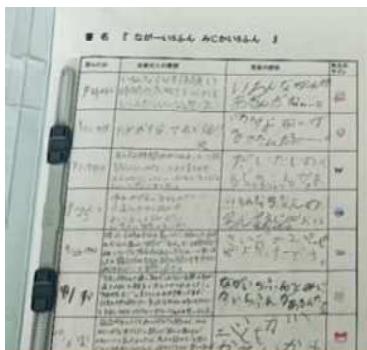
- 1、復活！家読（うちどく）
- 2、丁寧な目配り 本選びの支援
- 3、図書委員の取り組み
- 4、市の図書館とのつながり
- 5、地域の方・保護者のみなさんによる読み語り
- 6、本の紹介 ①児童が読んだ本の紹介 ②校長先生が本の紹介
- 7、新聞の活用
- 8、学校全体が図書館?!

評価	工夫したこと	本を好きになる環境づくり
----	--------	--------------

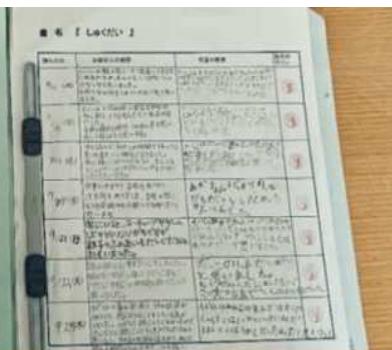
- 1、復活！家読（うちどく）リレー
学習部の先生と協力して、『家読（うちどく）リレー』を2年ぶりに再開した。各学年で学期に1回、担任が選んだ絵本1冊と記録用紙の紙ファイルの入ったブックバックを回し、読んだ日付と簡単な感想を、児童とおうちの方が記入する方法をとった。一緒に読んでいただくのは、大人の方ならどなたでもよい。おうちの人と絵本を読むことを通して、児童が読書を好きになってくれることと親子のコミュニケーションを深める時間が増えることを期待した。
- 2、丁寧な目配り 本選びの支援
本校は本好きな児童が多い一方、年齢に合わない簡単な本や同じジャンルの本ばかりを借りる児童もみられる。司書は、児童が返却・貸出に列を作ると、カウンターでの対応に注力してしまうため、役割を分担し、貸出・返却は司書が行い、選書については、担任が児童の読書傾向を参考にアドバイスを行った。担任の先生による細かい目配りで、一人ひとりに合わせた本選びの丁寧な支援をすることができた。
- 3、図書委員会の取り組み
昼休みのカウンターの仕事に加え、季節の本の展示や、図書館まつり（あじさいまつり：6月）（もみじまつり：11月）を1週間ずつ開催した。児童がアイディアを出し合って、日替わりのイベントを開催し、多くの児童が参加して盛り上がった。
- 4、市の図書館とのつながり

	<p>(ア) 市の図書館司書さんによる読み語り 本校の図書館まつりのイベントとして、市の図書館司書さんに来校を依頼した。普段と違う新鮮な本との触れあい方に児童が引き込まれた。学校司書も学ぶことが多かった。</p> <p>(イ) 学級文庫 年に3回、担任の先生が市の図書館に出向いて、学習や児童の成長に沿った本を50冊選び、教室の本棚に並べる。担任の先生が選ぶ本は、児童も興味をもって読んでいる。</p> <p>(ウ) 市の図書館の本の活用 国語の授業での読み広げや、平和集会・発表会で使用する本など、担任の先生から相談を受けて市の図書館へ連絡を取り、本を借りることで、授業や学校行事に活用できた。</p> <p>5、地域の方・保護者のみなさんによる読み語り 本校には読み語りボランティア「tonami」がある。4~11月までに、のべ34名の方に参加いただいた。(3学期も実施予定)。学校に置いていない絵本や紙芝居を紹介してくださった。児童の読書への興味の幅が広がっている。</p> <p>6、本の紹介 ①学級ごとの読書の終わりに、読んだ本をクラスのみんなに発表してもらう時間を設けている。低学年には本の題名と作者を、高学年にはあらすじの紹介も行った。読んだ本の感動を周りの人と共有することで、読書が広がり、紹介することに楽しみを感じるようになった。今後、ブックトークにつながるよう期待している。</p> <p>②全校集会で校長先生から「読書の秋」と題して、読書をするとどんな良いことがあるか、また、自宅の本や図書室の本を紹介し、いつでも本が身近にあることを話していただいた。</p> <p>7、新聞の活用 図書館の入り口に、佐賀新聞と毎日小学生新聞を置き、希望する児童が、小学生新聞の中から気になった記事をお昼の放送で紹介した。記事をそのまま読むのではなく、クイズなどで興味を引くように工夫した。放送を聞いて、読みに来た児童もいた。今後、放送の回数を増やしたり、発表の方法を工夫して、さらに新聞を活用していきたい。</p> <p>8、学校全体が図書館?!</p> <p>図書館の本は図書館だけに限らず、本たちが図書館を飛び出して全校のいろいろなところで読めるようにしている。</p> <p>階段の踊り場には、SDGsのクイズに合わせた内容の本たち、校長室の廊下には、校長先生が自宅から持ってきた本たち、ホールには新しく入った本たちが展示してある。</p>
取り組んだ感想	<ul style="list-style-type: none"> いつも偏った本を借りていた児童が、本の紹介や読み語りなどで、選ぶ本の種類が広がった。 昨年と比較して、活字に慣れ、じっくり読む児童が増えた。 図書の時間には、児童たちが自主的に本を紹介したり、紙芝居を読んでくれたりすることが増え、読書を楽しんでいる様子がうかがえた。 市の図書司書さんや読み語りボランティアさんの選書の幅の広さや語り口によって児童が引き込まれる様子は、学校職員も学ぶことが多かった。
今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ~令和8年(2026年)3月)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の飾りや1冊1冊の本が引き立つディスプレイを工夫する。 児童新聞の紹介。児童が興味を持つための工夫。 これからも、先生方・保護者の方・地域の方々と連携し、本の楽しさを伝えられる取り組みをしたい。

●家読（うちどく）ノート



1年生の記述から



2年生の記述から

もぐくんの家の状況とうちの状況が似ていて、同じようなことをしている気がしました。しばらく抱っこしていなかつたので久しぶりに抱っこしたら大きくなつたなあと思いました。下の子のせ話を追われて、ゆくつける時間がなかったので、これを機に「のやくそく」時間を作りたいと思います。

おうちの方からの感想

●図書館まつり（もみじまつり）



手作りポスター



児童集会でもみじまつりの紹介

図書館担当の先生の指導により、工藤直子さんの詩「いっしょに」で図書館と本がそばにあることを、「ばけっこ」で本のよさと自分のための読書をよびかけて、図書館まつりに誘った。児童は手ぶりを交えて、内容が伝わるように暗唱した。

●図書館まつり 低学年クイズの様子



クイズは、低学年と高学年とで会場を分け、伝記や本の登場人物などのクイズをだしたり、予め図書委員が選んだ秋に関する本の中から問題を出す「秋の本クイズ」などを行い、読書につながる工夫をした。

●図書館まつり じっくり読もうの部屋

「じっくり読もうの部屋」では、図書委員が選んだ本や自分が読みたい本をじっくりと読む、という取り組みをおこなった。希望者が多く、図書室に入れなかつた児童も、図書室横のホールで自主的に本を読んでいた。



●図書館まつり しおりコンクール



応募された作品は玄関ホールに展示

全校生徒からしおりを募集。季節を感じる作品や「図書館へ行こう！」というメッセージが書かれた作品などが並んだ。作品は、リボンをつけて本人へプレゼントした。自分が作った特別なしおりで、読書の楽しみが増した様子だった。



2年生の作品

●市の図書館司書さんの読み語り



エプロンシアター「おおきなかぶ」の様子

ピストグラムの本を使って、みんなでポーズを決めたり、くじで役割を決めて絵本を読んだりとアイディアが詰まっていた。

●学級文庫

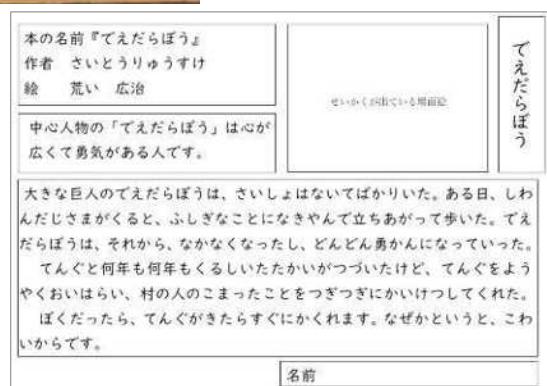
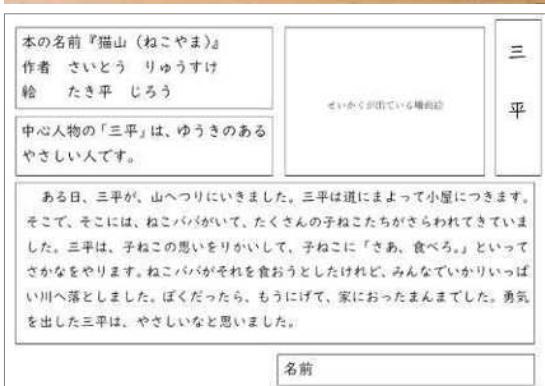
読んだら丸をつけるリストも教室に掲示して、読書を促進している



●市の図書館の本の活用



市の図書館の本を活用し、3年生の国語の授業で読み広げを行った。斎藤隆介さんの本の中から1冊を選び、主人公の紹介文を書いて図書室に掲示した。



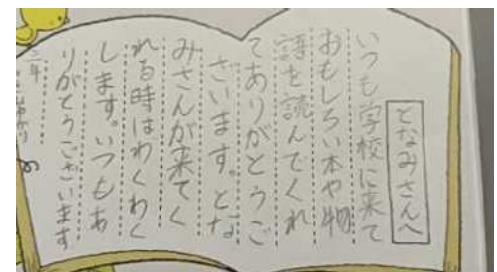
児童が書いた紹介文

●地域の方・保護者のみなさんによる読み語り

毎回、年齢や季節にあった大型絵本や紙芝居を読んでくださっている。
長年、続けて参加してくださっている方も多く、児童の成長を見守っていただいている。



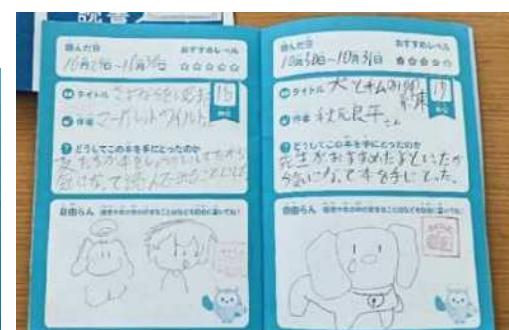
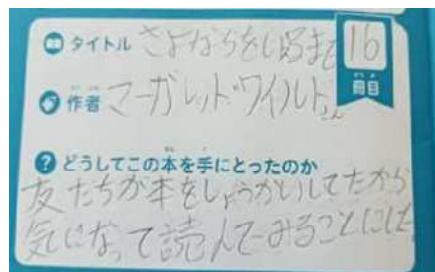
●全校朝会で校長先生から読書についてのお話



児童からボランティアさんへの感謝の手紙

●読書ノートの活用

県から頂いた「読書ノート」を活用し、自分が読んだ本の感想やイラストを楽しんで書いている。



●新聞の活用

上級生が、春には、「7歳の交通事故を防げ」という記事を、夏には、「大阪・関西万博」で万博の歴史についての記事など、時事に合った記事を紹介してくれた。



図書館入口

●学校全体が図書室?!



階段の踊り場

校長室の前の廊下

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	鳥栖市立基里中学校	児童数	154人
-----	-----------	-----	------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	本との出会いが、未来をひらく！
	取組期間	令和7年(2025年) 4月 1日 ~ 令和7年(2025年) 11月 30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	154人	実施日数	244日	読書冊数	3,346冊	連携した団体数	2団体
	【宣言目標設定の理由】							
	本との出会いが、未来を切り拓く力と豊かな感性を育むことができると考えられます。かけがえのない本との出会いを提供できる学校図書館でありたいと目標に掲げました。							
取組内容（概要）		【取組の内容（概要）】						
		<ol style="list-style-type: none"> 学校図書館管理システムの運用開始（令和7年4月～） ※ 鳥栖市立図書館と鳥栖市立学校図書館間がネットワークで繋がる 毎日10分間の「朝の読書」を実施 年間貸出目標の設定（25冊） 図書購入アンケートの実施 夏の図書館まつり（令和7年6月23日～7月17日）を開催 夏季休業前 特別貸出・新刊ブックフェア・貸出クラスマッチ・ 開運！本の福袋・書名DEクロスワードパズル・集まれ！ボブジテン大会 ※ 佐賀県立図書館よりカードゲーム「ボブジテン」を借用する 文化発表会（令和7年10月31日）にて 「しおりコンクール」「ポップコンクール」を開催 毎月テーマに沿った本の展示コーナー作り 教科書（国語）の掲載図書及び紹介図書の展示コーナー作り 生徒昇降口に学校図書館からのお知らせコーナーを設置 毎月 移動図書館車「とりこさん号」の巡回（令和7年9月～） ※ 鳥栖市立図書館より移動図書館車「とりこさん号」の巡回が始まる 						
工夫したこと		<ol style="list-style-type: none"> 学校図書館管理システムが導入されたので、それまでの貸出冊数・貸出期間を見直し、市立中学校4校で「貸出規則」を統一した。 貸出冊数：2冊 → 5冊 貸出期間：1週間 → 2週間 専門委員会（学芸委員会）による給食時の放送、学校図書館の展示コーナーや掲示物を活用して、たくさんの本を紹介した。 また、各学級に学級文庫を設置して「朝の読書」に活用した。 						

	<p>3. 読書意欲の向上のために年間貸出目標を25冊と設定し、年度末に多読賞表彰を行う予定である。</p> <p>4. 図書館オリエンテーション開催時に全校生徒に図書購入アンケートを実施した。また、全教職員にも校務分掌や担当教科・部活動などの観点を重視した図書購入アンケートを実施した。その結果を基に選書リストを作成し、校長・教頭・教務・事務主査・図書主任・教諭（国語科）・司書にて図書購入の検討を行った。</p> <p>5. 夏の図書館まつりでは、専門委員会（学芸委員会）主体でイベントを行った。「書名DEクロスワードパズル」では、専門委員会（学芸委員会）でアイデアを出し合いながら、クロスワードパズルを作成した。また、昼休みのイベントとして「集まれ！ボブジテン大会」を開催した。係を決め、昼休みの限られた時間内でスムーズに進行できるように準備をした。</p> <p>6. 夏休み前に全校生徒に応募用紙を配布して、作品募集を行った。文化発表会では、生徒・教職員・来場者（来賓・保護者）に投票用紙を配布し、投票していただいた。開票後、入賞作品を展示して、入賞者を表彰した。</p> <p>7. 毎月、テーマに沿った展示コーナーを複数箇所に作ることで、利用者が図書館をいつ訪れても新鮮な展示コーナーや掲示物があるように心がけた。また、年度初めに展示コーナーや掲示物の年間計画を立てることで、展示物として足りない資料を購入し補うことができた。</p> <p>8. 教科書改訂に伴い、掲載図書及び紹介図書の展示コーナーを見直し、展示物として足りない資料を購入し補うことができた。</p> <p>9. 誰もが利用する生徒昇降口に学校図書館からのお知らせコーナーを設置した。</p> <p>10. 「とりこさん号」の巡回を知らせるため、ポスターでの周知や専門委員会（学芸委員会）から給食時の放送で利用を呼びかけた。</p>
取り組んだ感想	<p>今年度、鳥栖市に学校図書館管理システムが導入されたことで、日常のカウンター業務が格段に便利になり、学校図書館のサービス向上が図られました。また、利用者である生徒・教職員の先生方が学校図書館に出向くことなく、タブレット端末から自校図書館の所蔵検索はもちろん他校図書館との横断検索が可能となるなど、デジタル面では「学習・情報センター」としての機能を大きく前進することができたのではないかと感じました。一方、アナログ面では「読書センター」としての機能をより一層充実させるために、教職員の先生方や専門委員会（学芸委員会）と様々なアイデアを出し合いながら、たくさんの本を紹介してきました。しかし、まだまだ読書の楽しさを十分に伝えきれていないと感じています。これからも鳥栖・基山地区の学校図書館や県立図書館・鳥栖市立図書館と連携し研鑽を深めて、利用者である生徒・教職員の先生方のために魅力あふれる資料を収集すると共に、誰もが心安らげる居場所を目指し環境作りに力を尽くしていきたいと思います。</p>
今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月～令和8年(2026年)3月)	<p>1. 冬の図書館まつりの開催（令和7年12月8日～19日） 冬季休業前 特別貸出・貸出クラスマッチ・覆面図書・書名DEしりとり</p> <p>2. 新春図書館まつりの開催（令和8年1月15日～30日） 開運！本の福袋・本みくじ・夢叶う！おまもり・手作りしおりワークショップ</p> <p>3. 修了式にて多読賞表彰（年間貸出目標 25冊達成者）</p>

【取組内容】

鳥栖市立基里中学校

1. 学校図書館管理システムの運用開始

これまでの手書きでの貸出・返却から、パソコンでの貸出・返却が出来るようになり大変便利になりました。



カウンター当番



所蔵検索用タブレットが大人気です！



所蔵検索画面

4. 図書購入アンケートの実施

限られた予算から必要な資料の選び、「夏の図書館まつり」に間に合うように本の受入作業を行いました。



生徒用・教職員用 図書購入アンケート



新しい本コーナー 0類～8類

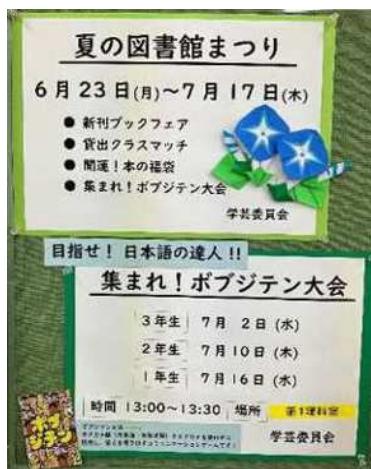


新しい本コーナー 9類・絵本

5. 夏の図書館まつりの開催

「夏の図書館まつり」の目玉として、「新刊ブックフェア」を開催しました！

専門委員会（学芸委員会）主体でイベントを行いました。



ポスター



図書館入口



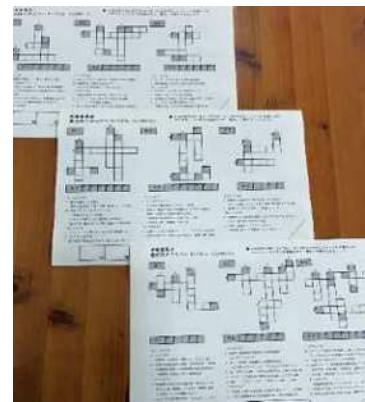
開運！本の福袋

本の福袋には…、
表書きのテーマに沿った2冊の本と
おまけとして包装紙と厚紙で作った
ブックカバーとしおりが入っています！



集まれ！ボブジテン大会

ボブジテンとは…、
カタカナ語（外来語・和製英語）を
カタカナを使わずに説明し、
回答者から答えを導き出す
コミュニケーションゲームです！
「ボブジテン大会」では…、
4人グループの中に進行役として
専門委員会（学芸委員会）が1人入り、
大会を盛り上げました。
また、司会やタイムキーパーなどの
係を決め、限られた時間内にスムーズ
に進行できるように準備をしました



書名 DE クロスワードパズル

6. 文化発表会での「しおりコンクール」「ポップコンクール」の開催



しおりコンクール



ポップコンクール



入賞作品

7. 各月のテーマに沿った複数箇所の展示コーナー作り

掲示板や展示コーナーを活用し、手に取りやすくするために表紙を見せて本の紹介をしました。



4月 進級・入学おめでとう！

その他：部活動紹介コーナー



身近な野鳥を観察してみよう！

その他：図書館に行こう！



6月 梅雨入り宣言！

その他：読書感想文 課題図書コーナー



7月 読書感想文にもぴったり！
主人公は中学生！



7月 ポップを作ろう！



9月 戦争と平和について考えよう！



10月 身の毛もよだつ怪談はいかが！



10月 ハッピー ハロウィン！



11月 お腹と心が満たされる
美味しい小説あります！

8. 教科書（国語）の掲載図書及び紹介図書の展示コーナー作り 9. 生徒昇降口に学校図書館からのお知らせを設置



教科書（国語）コーナー

その他に…、
入試・検定対策コーナー
学習漫画コーナー
読書感想文・課題図書コーナー
本屋大賞コーナー
映像化原作本コーナー
戦争と平和コーナー などの
常設展示コーナーを作りました。



お知らせコーナー

お知らせやイベントの告知に活用しました！

10. 毎月の移動図書館車「とりこさん号」の巡回



新移動図書館車「とりこさん号」



毎月の巡回が楽しみです！

これからも
利用者である
生徒や教職員の先生方に
必要とされる
「学校図書館」を目指して、
他機関と連携し
様々な取り組みを
行っていきたいと思います！

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	武雄市立橋小学校	児童数 121人
-----	----------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	いろんな本をたくさん読んで本となかよしになろう！
	取組期間	令和7年(2025年)4月14日～令和7年(2025年)11月28日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	121人	実施日数	231日	読書冊数	19639冊	連携した団体数	2団体
	取組内容（概要）	① いろんな本に興味をもち、読書の幅を広げる取組を行う。 ② 読書への意欲を高める取組を行う。 ③ 関係各所との連携を図る。						
評価	工夫したこと	① いろんな本に興味をもち、読書の幅を広げる取組を行う。 1. 「おすすめの本の紹介」 ・教師のおすすめの本や新書を紹介し、多様な本に出会わせるように仕組んだ。 紹介の方法としては、年度当初に図書事務担当が全職員への依頼し、おすすめの本を取りまとめ、図書館のモニターを使用し、スライドショーで流すようにした。年度途中では、新書紹介についても同様にスライドショーを利用した。児童の興味がわき、読んでみたくなるような演出となつた。 2. 「教科書のおすすめの本一覧表の配布」 ・各学年の教科書に掲載されている「おすすめの本」の一覧表（色画用紙に印刷）を年度当初に児童に配布し、借りたらシールを貼る取組を行つた。 ② 読書への意欲を高める取組を行う。 1. 「年2回のブックフェス」 ・全校児童が図書館や本に興味をもち、読書に積極的に意欲的に親しめるように、年に2回（6月、11月）イベントを開催した。図書委員会を中心とした活動で全校児童が図書室に足を運び、本を借りたり読書をしたりするきっかけをつくるようにした。 【イベントの内容】 ●ブックスタンプラリー ・スタンプカードを配布し、本を借りたら委員会児童がスタンプを押す。ラリー終了後、毎日スタンプをもらった人に、がんばり賞として、プラス1冊貸し出し券を渡した。 ●しおりづくり ・材料を図書室に取りに行き、各学級で作ってもらった。しおりが、できたら、図書室に提出し、しおりは後日ラミネートをして、返却し活用してもらった。 ●図書委員による読み聞かせ ・図書委員の担当で読み聞かせをし、来てくれた人にプラス1冊貸し出し券を渡した。 ●図書館クイズ ・図書室にある本にまつわるクイズを低・中・高の学年別に出題し、紙に答えを書いてもらい回収した。正解者にはプラス貸し出し券2枚、出してもらった人には1枚を贈呈した。 ●みんなでパズル ・パズルカードを配布し、期間中に図書を借りたらパズルに貼つてもらった。パズルが完成したクラスに、がんばり賞として、プラス1冊貸し出し券を渡すようにした。						

		<p>● 好きな本アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな本アンケートの用紙を図書委員が配布し、好きな本ベスト5を決めて掲示板で発表するようにした。 <p>2. 「貸出150冊（下学年）100冊（上學年）、達成賞状の発行」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出冊数を目標にして、できるだけたくさんの本を借りに図書室へ足を運ぶように意欲付けを行った。 <p>③ 関係各所との連携を図る。</p> <p>1. 「地域ボランティア『お話会たちばなかっぱ隊』による読み聞かせ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアと学校が連携し、年間を通して実施している。かっぱ隊のみなさんが1名ずつ全学級を担当して、朝の時間に読み聞かせを行っている。平成16年度から継続して行っており、月に1回程度、年間を通して計画的に行っている。 <p>2. 「武雄市図書館との連携」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武雄市図書館からの利用促進・イベント等のお知らせについて学校図書館を通して児童へ周知している。また、毎年、小学1年生対象に武雄市図書館の貸し出しカードを作成する案内が配布され、多くの児童が作成をし、活用している。 ・学校図書館の蔵書で十分でない場合、行事や学習で必要な本を担当でまとめて借り、活用することができた。
取り組んだ感想		<p>① いろんな本に興味をもち、読書の幅を広げる取組を行う。</p> <p>1 「おすすめの本の紹介」では、教師のおすすめということで、興味を持って借りたり、本の内容に関する会話が生まれ、よりよいコミュニケーションにつながったりと読書機会が増加し読書の幅が広がった。スライドショーで紹介することで、展示できない本を紹介することができ、児童が本と出会う場が増えた。新書については、他の人が借りていたとしても本の情報を知ることができるので借りて読んでみたいという思いをつなげることができた。</p> <p>2 「教科書のおすすめの本一覧表の配布」では、できるだけシールを増やしたい気持ちも働き、いつの間にかいろいろな本を借りて読むことにつながり、読書の幅を広げることができた。</p> <p>② 読書への意欲を高める取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックフェスを実施することによって、全校児童が本や読書に接する機会が増え、いつもは読まないジャンルの本も借りて読むことにつながっていた。また、貸出券の贈呈により図書館クイズへの参加者が増加したことで図書館への来館が増えた。 <p>6月、11月の平均貸出数は、どの学年も増加傾向で、ブックフェスによる読書への関心を高めることができた。また、貸出数が増加する6月・11月の同月を年度で比較すると、令和6年度6月が21.9冊に対し、令和7年度6月は31.2冊であった。ただ、令和6年度11月は27.6冊に対し、令和7年度は、20.4冊と減少していたが、11月は、学校行事等の関係でブックフェスの期間が短かったためとも考えられる。年度全体で見てみると、4月から11月までの1人平均貸出冊数は、令和6年度が150.4冊、令和7年度が164冊で10冊以上も増加していた。その年度ごとの工夫を凝らしたブックフェスによる取組の効果が貸出数増加につながっていると考えられる。</p> <p>③ 関係各所との連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は、読み聞かせを心待ちにしており、読んだことのない本と出会うよさや読書の楽しさを感じることができた。また、ボランティアのみなさんの語り口による話に没入し、心穏やかな時間を過ごすことができた。武雄市図書館との連携においても、学校図書館の蔵書を補完することで、読書の幅を広げることができた。 <p>主に上記3つの取組を実施することで、学校全体としては、「いろんな本をたくさん読んで本となかよしになろう！」の目標を達成できたと思う。</p>
今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ～令和8年(2026年)3月)		<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年12月は、人権週間が実施されるため、各教室横の廊下にブックトラックを設置し、人権に関わる本を自由に読んでもらうコーナーを設置する予定である。 ・今年度中に、できるだけ多くの児童が目標貸出冊数の150冊（下学年）100冊（上學年）を達成できるように図書室の運営、各学級での読書奨励を行っていく。

武雄市立橋小学校 「スクール読書チャレンジ」資料

① いろんな本に興味をもち、読書の幅を広げる取組

「教師のおすすめの本の紹介」

「新書紹介」

モニターにスライドショーで写します。
子どもたちが立ち止まって見ています。



「教科書のおすすめの本の一覧表」

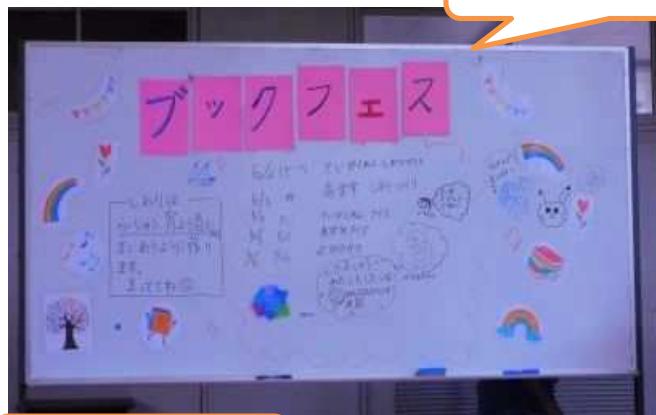
借りたらシールを貼ります。シールが増えるのを楽しみにしています。



② 読書への意欲を高める取組

「ブックフェス」6月、11月

図書委員が作成した看板



しおりづくりお知らせ



「しおりづくり」

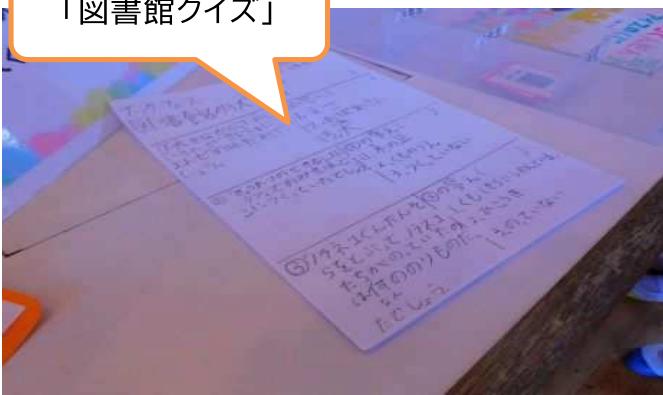


休み時間には、図書室にたくさんの子どもたちが集まり、イベントを楽しむ様子が見られました。

完成したしおり



「図書館クイズ」



「図書委員による読み聞かせ」



「みんなでパズル」



「好きな本アンケート」
図書委員で集計し、
ランキング 5 位までが
発表されました。



各クラスでパズル
のピースを集めて、
本の表紙絵が完成
しました！

150 冊(下学年)
100 冊(上學年)
達成者には賞状を贈呈します。
子どもたちにとっては
一つの目標となっています



① 関係各所との連携

「地域ボランティア『お話会たちはなかっぱ隊』による読み聞かせ」

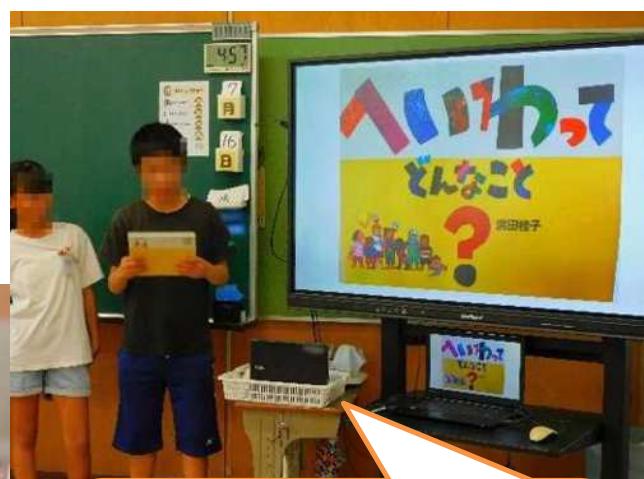


お話の世界にひたってすてきな時間が流れます。

昔ながらの紙芝居も楽しんでいます。

「武雄市図書館との連携」

7月の平和学習週間には、武雄市図書館から担当が借りてきた本をブックトラックに並べ、教室横に設置し、手に取って読めるようにしました。



7月の平和学習週間に行った平和集会で、武雄市図書館から借りてきた本の中から6年生が選書し、5年以下の各学級で読み聞かせを行いました。

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	嬉野市立嬉野中学校	生徒数 306人
-----	-----------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	不読率0を目指して～あなたに身近な図書館を～
	取組期間	令和7年(2025年) 4月 1日～令和7年(2025年) 11月 30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数 306人 実施日数 244日 読書冊数 10,438冊 連携した団体数 4団体	取組内容(概要) ① 読書環境整備(蔵書の充実、テーマ展示、面出しリンク、新刊案内掲示、新聞活用、図書館だより発行、しおり・ブックカバー配布) ② 授業連携(オリエンテーション、読書感想文選書、本の帯づくり) ③ 委員会による広報活動(アンケート実施、おすすめの本紹介、委員会だより発行) ④ 図書館まつり(読書BINGO、しおり作り、先生当てクイズ、広辞苑カルタ大会) ⑤ 地域との連携(地域ボランティアによる読み聞かせ、嬉野図書館の企画への参加、地元書店のイベント活用) ⑥ 多様な子どもたちへの対応(学校生活支援員と連携した定期来館の働きかけ)
	工夫したこと 第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」に掲げられている「不読率の低減」を意識し、以下の工夫を行った。 まず不読の生徒に図書館を知ってもらうため、オリエンテーションや読書感想文の選書を国語の授業に入れてもらい、図書館へ足を運ぶきっかけ作りを行った。その際、初めて訪れた生徒の様子を観察し、関心を持った本を選書の対象にするなど、「読みたい本がそこにある図書館」を意識した取組を重ねてきた。 貸出10冊ごとにしおりを、50冊を達成した生徒には紙バッグを用いたブックカバーを作製・配布し、読書意欲の向上に努めた。 図書委員会による本紹介、テーマ展示、委員会だよりの発行を定期的に行い、生徒目線での情報発信に力を入れることで、図書館をより身近に感じられるよう工夫した。	
	取り組んだ感想 生徒のリクエストを取り入れた選書と「映像化作品」コーナーを常設することで、これまで来館したことがなかった生徒の利用が見られるようになった。しかし来館した生徒がまた別の生徒を連れてくるなどの効果があった一方で、一部生徒が利用マナーの面で課題が見られたので、今後全校への周知とともに個別の声かけを行っていきたい。	
	今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月～令和8年(2026年)3月)	昨年同時期16%であった不読率は、現時点で13%まで改善されており、年度末の1桁台を目指し取組を継続するほか、今年度一度も図書館を利用していない生徒に対し、積極的な声かけや情報提供を行い利用の促進につなげたい。

*取組内容紹介（特に力を入れたもの）

① 読書環境整備

・**蔵書の充実**：予算を細かく分け新刊の購入回数を増やし、常に新しい本がある図書館を生徒に印象付けている。生徒の読書傾向に応じた選書の他、リクエストも積極的に受け付けている。新刊貸出の際は教室へ新刊案内を掲示するほか、昼の放送でも案内を行っている。



映像化作品コーナー

・**テーマ展示**：図書館入口の棚を活用し、季節や行事に合わせたテーマ展示と映像化作品の展示を行っている。映像化作品コーナーは生徒の関心が高く、展示した本は常に貸出中で予約も多い。

・**面出しリンク**：昨年度 5,000 冊の除籍と NDC に基づく配架の見直しを実施したことで書架に余裕が生まれ、面出し展示が可能となった。そこで、掃除担当の生徒が面出しを行い、本を借りた生徒が次の本を面出しする「面出しリンク」という取組を始めた。生徒の視点を活かした書架展示により、多くの生徒が幅広い本に触れるきっかけとなっている。また、担当する生徒にも図書館の本に興味を持つきっかけとなり、貸出へつながった。



面出しを行う様子

・**新聞活用**：本校は今年度 NIE 実践校に指定されており、玄関の新聞コーナーでは 6 社の新聞が閲覧できる。各社の特徴がわかるよう、歴史、発行部数などを紹介する掲示を作成し、合わせて展示している。



NIEコーナー

また、図書館内では「図書館教育ニュース」を掲示し、毎回のテーマに沿った本の紹介や間違い探しクイズもあわせて掲示している。



ブックカバー

・**しおり・ブックカバー配布**：貸出 10 冊ごとに配布するしおりは、アンケートで寄せられたリクエストをもとに、2カ月ごとにテーマを替え作製している。貸出目標の 50 冊を達成した生徒には、好きな紙バッグを選ばせ、ブックカバーにして渡している。使用する紙バッグについては、職員に協力を呼びかけ取組の周知を図った結果、生徒への声かけも増えた。

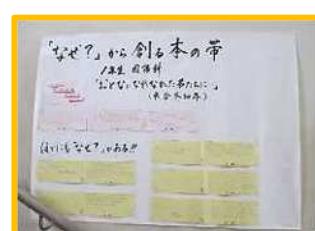
② 授業連携

・**オリエンテーション**：選んだ本を 3 分ずつ順番に試し読みする「味見読書」と、LibraryNAVI(ライブラリー・ナビ)を用いた図書館の利用案内を行った。味見読書の際に蔵書をじっくり見て回ったことで、蔵書の幅広さに気づき、図書館に足を運ぶきっかけとなった生徒が多く見られた。図書館について知ってもらうため、作成したものは職員にも配布を行った。



LibraryNAVI

・**本の帯づくり**：一年生の国語の授業『大人になれなかった弟たちに…』終了後に、「本の帯づくりをしたい」との相談を受け、ゲストティーチャーとして本の帯の説明を行い、担当の先生の相談しながら使用する帯の作成を行った。



完成した帯は図書館入口に掲示し、参観日には保護者へも見てもらったほか、図書館内に日替わりで本に巻いて展示を行った。



作品展示

③ 委員会による広報活動

・アンケート実施：全校生徒を対象に図書館利用に関するアンケートを実施した。利用が少ない生徒からの「年間貸出目標を達成できなかった理由」、「図書館に置いてほしい本」に対する回答を図書館運営に反映させ、利用促進につなげることができた。

・おすすめの本紹介：「夏」、「秋」をテーマにPOPを作成、展示した。展示された本を読んだ生徒には感想カードを書いてもらい、紹介した委員へ渡した。

本を通した交流を目的に、POPを市内の中学校でも活用していただいた。

「秋の読書推進月間」には、全校生徒一人一人におすすめの本をカードに書いてもらい、図書委員が学級ごとに模造紙にまとめ各教室に掲示した。

掲示の作成には、図書委員以外にも多くの生徒が協力し、各学級個性の光るものに仕上がった。



他校での活用の様子



・委員会だより発行：図書館だより「となりの図書館」、委員会だより「つながる図書館」を両面で発行し、イベントや各クラスの多読者の「推し本」の紹介などを行った。

④ 図書館まつり

・先生当てクイズ：先生方の幼い頃の写真とおすすめの本をヒントに、紹介している先生を当てるクイズで、毎年好評の企画である。正解者には後日行われる抽選会への参加券を配布しており、これを目的に普段利用しない生徒の来館も多数見られる。



・広辞苑カルタ大会：広辞苑に掲載されている言葉が書かれた取り札と、その意味が書かれた読み札を用いたカルタである。賞品を用意して参加者を募集したところ、応援者も含め、普段来館しない生徒が多数来館していた。先生の参加もあり、盛り上がりを見せた。

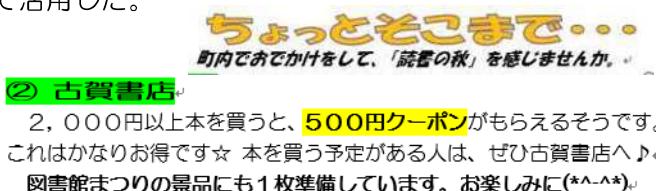


⑤ 地域との連携

・嬉野図書館の企画への参加：「嬉野市読書活動推進月間」に図書館で行われた好きなテーマで特集コーナーを作るという企画に、嬉野中図書委員会として参加した。「ザ・青春」というテーマで、学生生活に関する本を10冊選書し、図書館に展示していただいた。



・地元書店のイベントの活用：佐賀県書店商業組合が行っているクーポン券配布のイベントを図書館だよりで紹介したほか、生徒会予算を活用して本を購入し、クーポン券をいただいた券は、図書館まつりで行った抽選会の景品として活用した。



⑥ 多様な子どもたちへの対応

・**学校生活支援員と連携した定期来館の働きかけ**：校内適応教室を利用している不登校傾向のある生徒に対し、学校生活支援員と連携し、登校時にいつでも図書館を利用できる環境を整えている。

対象生徒からのリクエストも選書に反映するとともに、読書傾向に応じた本の紹介や読後の感想を共有するなど、次の登校時も来館しやすい働きかけを行っている。対象生徒が本来読書好きであることも幸いし、来館時の司書との対話を楽しみにしており、生徒の登校意欲にもつながっている。

また、その他の適応教室の生徒や特別支援学級の生徒に対しても、個別の声かけや本の紹介、読み聞かせなどの対応を行い、生徒の読書意欲の向上につなげている。

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	神埼市立千代田東部小学校	児童数 110 人
-----	--------------	-----------

I. 取組前の宣言内容

宣言	目標	自分の世界を広げる読書をしよう！
	取組期間	令和7年(2025年) 4月8日 ~ 令和7年(2025年) 11月 30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II. 取組後の評価

評価	取組人数	110 人	実施日数	237 日	読書冊数	20211 冊	連携した団体数	2 団体
	取組内容（概要）	<p>① 読書集会 ・ 1年間の取組を宣言し、今年の目標を全校児童で確認する。 ・ 読書ボランティア「フラワーケムケムさん」の紹介。</p> <p>② 図書館へ行こう～図書館って楽しいよ～ ・ ミニ図書館まつり（図書館すごろく・参加型掲示物・郷土作家 吉田絃二郎の絵本を読もう） ・ 秋の図書館まつり（読書bingo・ことばクイズに挑戦・手作りしおりコンクール・参加型掲示物）</p> <p>③ いろいろな本を手にとろう～自分の世界を広げよう～ ・ にじいろ50選の推奨 ・ 読書郵便 ・ 各学年の各教科と関連した本の配架・展示・推奨 ・ 図書委員による本の展示・季節の本の展示 ・ 読書bingo ・ 神埼市立図書館や市内学校図書館から相互貸借</p> <p>④ じっくり読もう・じっくり聞こう ・ 毎週金曜日朝の時間の読書タイム ・ 読書ボランティア「フラワーケムケムさん」による次郎物語の朗読 ・ ファミリー読書 ・ すき間時間の読書の推進 ・ 水・金曜日の読書の宿題</p>						

工夫したこと

- ① **読書集会**
 今年度の目標達成に向けて「にじいろ50選を読む」「図書館おすすめの本を読む」「長編を読む」「50選の読み直しに挑戦する」ことを児童にすすめた。「読書の記録」に達成状況を記録する欄を設け、1年間の目標を意識できるようにした。達成したら、校長室で表彰をし、図書館からは3冊券などを渡している。
- ② **図書館へ行こう～図書館って楽しいよ～**
 図書館まつりでは、毎年児童に好評なイベントを継続している。昨年度から新たに「ことばクイズに挑戦」を実施した。四字熟語や慣用句・ことわざに関するクイズを低・中・高学年ごとに図書委員会と一緒に作成した。クイズ形式で楽しく取り組み、ことばに興味をもつよい機会となった。関連する8類の本も展示した。
 おすすめの本の紹介カードを、参加型掲示物としておすすめの本と一緒に展示した。友だちや上級生のおすすめした本を喜んで借りていく姿が見られた。
- ③ **いろいろな本を手にとろう～自分の世界をひろげよう～**
 様々な分類の本、教科書掲載の本、ロングセラーなどから「にじいろ50選」として学校で選定し、50選を読む活動を毎年続けている。普段は手に取らない本も読んでみると意外とおもしろいと気付くきっかけになっている。

	<p>「当たりくじ付き読書郵便」では、たてわり班内でペアをつくり、おすすめの本の紹介や感想を書いた葉書のやりとりをした。事前に誰に紹介するのかを児童に知らせ、相手を意識して本を選び、思いを綴っていた。読書タイムを利用して、紹介された本を読む時間、感想を書く時間を確保した。葉書には当たりくじをつけて、楽しく取り組めるようにした。また、全校お楽しみ抽選会をリモート中継し、大盛況となった。</p> <p>季節の移り変わりを感じられる本の展示や図書館だよりの作成を心がけた。また、2カ月に1度、図書委員のおすすめの本の展示を入れ替えた。</p> <p>各学年の様々な教科と関連した本を多く取り入れ、わかりやすく配架・展示しているため、その学習と並行して関連する様々な本を手にすることができた。また、国語科はもちろん、社会科や理科、総合的な学習の時間などの調べ学習に数多く活用でき、新たな分野の本を手に取るきっかけとなった。さらに、レポートを書く際には、本の内容を参考にしようと、じっくりと読むこともできた。</p> <p>④ じっくり読もう・じっくり聞こう</p> <p>水曜日と金曜日の週2回、家での読書を宿題に出してもらうなど、家読の推進を図った。年3回ファミリー読書の期間を設け、保護者の方からもコメントをもらうなど、家庭と連携して児童の読書習慣の育成を図っている。</p> <p>月に2回、全校で15分間の読書に取り組んでいる。また、時間があるときはいつでも本を手に取り、すきま読書ができるように、机脇にブックバッグをかけておくようにしている。長編を1冊は借りるように呼びかけている。</p> <p>月に2回、朝の時間に読み聞かせボランティア「フラワーケムケムさん」に来ていただき、6年生には「古事記」の読み聞かせを、他学年には絵本の読み聞かせをしていただいた。また、本校は「次郎物語」の作者下村湖人生誕の地に近いことから、湖人の生き方について学ぶ「次郎週間」がある。今年度の次郎週間中の読書タイムは、フラワーケムケムさんに「次郎物語 第一章～お猿さん～」を佐賀弁に置き換えて朗読劇を自作、上演していただいた。役になりきった姿にとても感動した様子で、「次郎物語」をより身近に感じ、親しみをもつよい機会となつた。</p>
取り組んだ感想	<p>読書集会では、1年間の取り組み目標を全校児童で確認できたことで、具体的な貸し出し冊数の目標を明確にでき、子ども達自身が目標冊数を覚えた。「私もう半分（65冊）達成できた。」などの声が図書室ではよく聞くことができた。また、目標冊数を達成できた児童は、表彰状や三冊券等のプレゼントに喜び、さらに図書館へ行く児童が多くみられた。今年度の貸し出し冊数達成者は、11月末時点で87%の児童が達成できている。</p> <p>図書館へ行くことが楽しくなるイベント（図書館祭り・読書郵便、プラス券等）を多く取り入れることで、子どもたちにとって図書館が楽しい場所、好きな場所となつている。そのため、自然と図書室に足が向き、たくさんの本を手にするきっかけとなつた。</p> <p>掲示物の工夫、おすすめの本コーナー設置など、様々な働きかけをすることで、色々な本を手にとる姿が見られた。読書郵便は、縦割り班（異学年）の友だちに紹介された本をきっかけに、こんな本があったのかと図書館の本の魅力を再発見することができた。また、項目ごとに分けられた見やすい配架をすることで、国語科や社会科や総合的な学習の時間などの調べ学習にも数多く取り入れられ、読書によって新たな知識を得る喜びを体験できた。「にじいろ50選」は、多くの児童が読み終わることができており、11月末時点で、全校児童の82%が達成できている。</p> <p>ファミリー読書や毎週水・金曜日の読書の宿題の取り組みでは、自分のペースで借りた本をじっくり家で読むことができ、保護者や児童からも好評だった。今後も学校だけでなく、家でじっくり読む時間の確保を働きかけていきたい。また、毎週金曜日読書タイム（フラワーケムケムさんによる読み聞かせ）では、集中して話を聴いている姿が多く見られた。さらに、フラワーケムケムさんによる読み聞かせ集会での「次郎物語 第一章～お猿さん～」を佐賀弁に置き換えた朗読劇では、迫力のある演技に、1年生から6年生まで真剣に見入っており、じっくりとお話を聴くよい体験ができた。</p>
今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ～令和8年(2026年)3月)	<p>4月から取り組んだ活動を今後も継続して行い、子どもたちに本を手にする喜びや、読書は楽しいと思ってもらえるような活動の積み重ねをしていく。</p> <p>昨年度から実施している「ことばクイズ」は、ことわざ・慣用句などに興味関心をもち始めているため、今後もことわざ・慣用句を児童が手に取りやすい場所に展示し推奨していく。また、今年度から強化し始めた、他教科の学習と関連させた取り組みは、新たな知識を得られる喜びや、じっくりと本を読む体験、調べ学習の充実といった読書の素晴らしい本質に迫る取り組みであるため、今後さらに強化していく。</p>

① 読書集会



(パワーポイントを使って図書委員が発表しました)

50選・多読賞 達成者の表彰



50,100,130,200
冊ごとにスタンプ
を押す。しおり、く
じ引き券を贈る。



「読書の記録」を初回のオリエンテーション時に配布、1年間活用します。 50選・多読賞達成者の図書館掲示

② 図書館へ行こう～図書館って楽しいよ～



6月 ミニ図書館まつり

(図書館すごろく・吉田絃二郎の絵本を読もう)



ミニ図書館まつりのチラシ（両面印刷）

ミニ図書館まつり（参加型掲示物 星に願いを）



秋の図書館まつり（参加型掲示物 とびたて！読書のバルーン）

手作りしおりコンクール

10月 秋の図書館まつり（読書bingo・ことばクイズに挑戦）



図書委員が丸つけ



秋の図書館まつり
チラシ

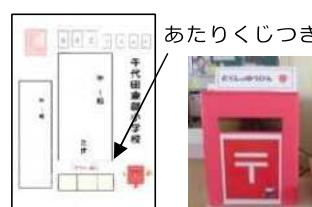
↑読書bingo（裏面に印刷）
1・2年生用 3~6年生用

↑ことばクイズ
1・2年生用 3・4年生用 5・6年生用
(ことわざ・慣用句・四字熟語)

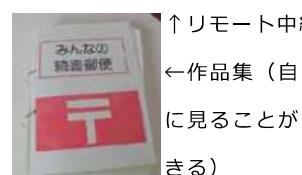
③ いろいろな本を手にとろう～自分の世界を広げよう～



「にじいろ 50 選」を読もう！ 季節の本の展示（毎月テーマを決めて、コーナーを設置）図書委員おすすめの本

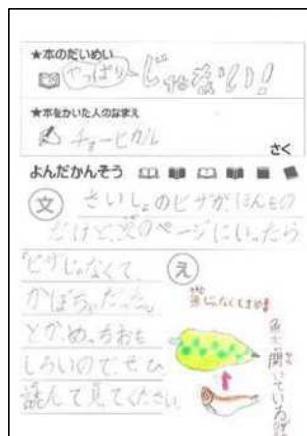


6月 読書郵便 おすすめの本の紹介文を書く → ポストに投函 → 葉書と本をセット → 感想書き
↑図書委員は1年生の補助に入る で図書委員が配達

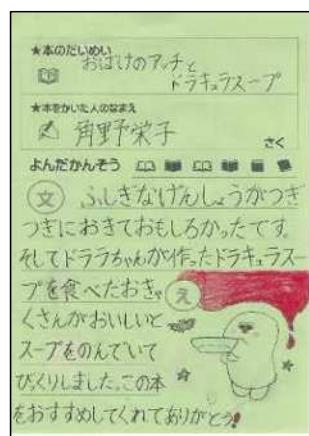


6月実施のため、1年生は印
象に残った場
面を絵で表現
するように工
夫した。

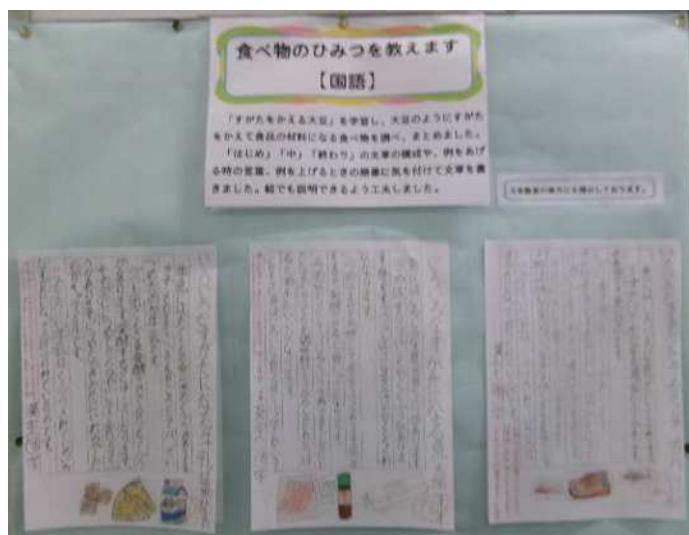
7月 読書郵便お楽しみ抽選会の実施



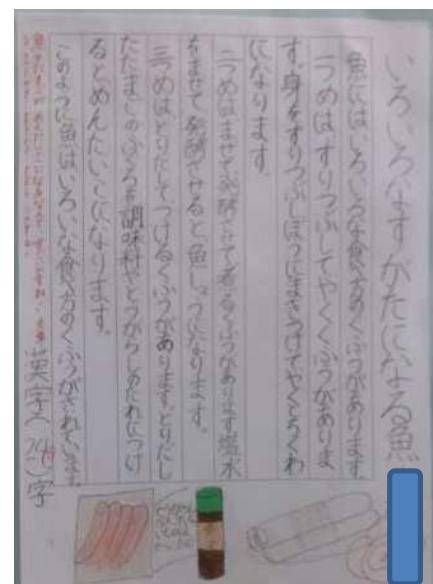
読書郵便 はがき



読書郵便 (返信用はがき・若草色の紙に印刷)



関連図書の推奨 (3年国語 食べ物のひみつ教えます)



④ じっくり読もう・じっくり聞こう



ファミリー読書の推奨 (年3回)



9類の本は、長編を選ぶ際の参考に、低・中・高で3色に分けて本の背にシールを貼っている。



6月『次郎物語～お猿さん～』朗讀劇



月2回 読み聞かせ

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	神埼市立千代田西部小学校	児童数 204人
-----	--------------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	本をひらいて広い世界へ
宣言	取組期間	令和7年(2025年) 4月 8日 ~ 令和7年(2025年) 11月 30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数 204人	実施日数 237日	読書冊数 34,091冊	連携した 団体数 2団体
評価	●「読む力」と「書く力」を育む取組 ・「せんだん賞」…おすすめ30選を含む100冊の本を読み、「読書の記録」に読んだ本の感想を書いた児童に「せんだん賞」を授与。 ・「読書の記録」…おすすめ30選の中から1冊と学校でのおすすめの本や分類に限らず自分が好きな本を1冊選び、計2冊の本の感想又は紹介文を書く。感じたことを言葉にする作業を行うことで、「書く力」を育む。 ●学校行事に合わせたイベントや展示 ・「赤白対抗 読書 de 玉入れ」 …体育大会の関連イベントとして赤組と白組に分かれ貸出冊数を競う読書玉入れを実施。(10日間) ・授業の単元や校内行事に合わせたコーナー展示 (修学旅行、いもほり、キャリア教育など) ●本との出会いや、読書の楽しさを体験できるような取組 ・「親子読書 de 回覧板」 …クラスでグループを作り、グループごとに1冊の絵本を回覧する「読書回覧板」を実施。 ・「本をひらいて広い世界へ ~本を読んで旅に出よう~」 …秋の図書館まつりのアフターアクティビティとして、本を通して世界各国のおはなしや、文化・歴史に触れるという展示を行った。テーマに沿って集めた本を、国と地域を大きく6つに分ける「世界6州」で分類し、州ごとに色分けをして展示を行った。各州の色のラベルがついた本を読むと、読書パスポートにスタンプを押すことができる。			

工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、せんだん賞の達成条件である「読書の記録」で3冊の感想を書く取組を1冊に変更した。理由は、1冊の感想を詳しく書いてもらうために書くスペースを広くすることと、書くことが苦手な児童でも挑戦しやすくするためである。また、本を読んだ時に感じたことをメモしておく「読書感想まとめシート」を用意し、感想を書く際に活用できるようにした。 ・「赤白対抗 読書 de 玉入れ」では、参加意欲が高まるよう中間発表をこまめに行うようにした。(2~3日ごと) ・「読書 de 回覧板」では、図書主任、図書館司書が相談をしながら、各学年の年齢に応じた本や親子で読むことで心を通わせられるような本を選ぶようにした。 ・「本をひらいて世界へ」では、旅に出たくなるようなお話の本や世界の文化や歴史を知ることができる本を集め展示したが、学校で所蔵しているものだけでは十分ではなかったので、公共図書館に協力を依頼し、展示本の充実を図った。 ・旅をする雰囲気を味わってもらえるよう、世界地図を載せた「読書パスポート」というものをつくり、読書を通して旅をした場所にスタンプを押すようにした。 ・世界の本のコーナーのそばに、地球儀や地図帳、世界各国の文化や町の風景を見ることができる本なども一緒に並べ、気になることや行ってみたい場所があった時に学びを深められるようにした。
取り組んだ感想	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書の記録」の感想を3冊から1冊にし、書くスペースを広くしたことで、以前より1冊について具体的に感じたことを書くようになった。また、自分のおすすめの本の紹介文を書くことで、その本の魅力を言葉にすることが自然とできるようになり、おすすめの本の感想を書く際に役立っていた。 ・「読書感想まとめシート」は、箇条書きで感じたことをメモすることができるので、メモを並び替えることで2~3行の感想を書くことができるようになった。ただ、活用できている児童が少ないというところが今後の課題である。 ・こちらから働きかけたわけではないが、体育大会後に上級生と下級生が一緒に図書室にきて一緒に本を読んだり、読み聞かせをし合ったりする姿が多くみられた。本校の“全校のみんなが一丸となって行事を盛り上げる”という雰囲気がつなげてくれた光景だと感じた。 ・「親子読書 de 回覧板」は「今まで読んだことがない本を読むことができよかったです」「親子で本を読んでコミュニケーションをとることができた」「グループごとに同じ本を読むことができるのが面白い」など今回も保護者・児童共に好評だった。また、回覧板で読んだ本を、もう一回読みたいと後日借りに来る児童の姿などもあった。昨年度より始まり今年で2回目だが、続けていきたい取組のひとつである。 ・「本をひらいて広い世界へ」では、「初めてきいた名前の国だったけど、本を読んで実際に行ってみたくなった」「この国もアジアだったの?」などと、新しい発見があり楽しんでもらえている。地球儀や地図帳で国の場所を探す児童の姿もある。
今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ~令和8年(2026年)3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・今行っている「本をひらいて広い世界へ」を12月の最終貸出日まで行う。 ・「せんだん賞」は今年度もおよそ4割の児童が達成している。(11月現)今後も個々の頑張りを認めながら声掛けを行ない、達成率があがるよう働きかけていく。

校長室前に掲示されている「読書の木」

100冊以上の本を借りた児童の名前の花が咲きます。

204名中166名が達成(2025年11月30日現在)



せんだん賞表彰式(校長室にて)



読書の記録及び読書感想まとめシート

読書感想まとめシート

年 組 名前

「おすすめ30選」の中で すぎだった 本について思ったことなどを
読書感想まとめシートにメモしてみよう！

月 日 (読み終わった日)

本の題名:

本の表紙・題名を見て思ったこと/この本を選んだ理由など

本の中でもんに残ったことや好きだった場面
(〇〇ページのこの言葉がすきだったなど、印象に残ったことをメモしよう)

この本を読んで感じたこと

- この本を読んでどんな気持ちになったかな？
- この本を読んでどんなことが分かったかな？
- 物語じでてきた主人公と何のような経験をしたことはある？
- 自分だったらどうするかな？

など、自分にインタビューをしながら思ったことを書いてみよう！

読書の記録

年 組 名前

「おすすめ30選」を読み終えたら、読書感想シートを見ながら感想を書こう。

「おすすめ30選」の中から好きな本を1冊選びましょう。

本の題名:
著者の名前:

・「おすすめ30選」の中から好きな本を1冊選び感想を書く

わたしのおすすめ！

あなたがおすすめしたい「おきにいりの1冊」を紹介しよう。

好きな絵やおすすめのポイントを書いてみましょう。

本の題名:
著者の名前:

・自分のお気に入りの本を1冊選び、紹介文を書く。

赤白対抗 どくしょ de 玉入れ



体育大会後の図書室での光景



先生たちのおすすめの本(図書館まつり)



修学旅行での思い出を振り返ろう



親子読書de回覧板

親子読書de回覧板 感想 (1)年 お子様の名前 ()
子供の年齢に合う本を選ぶのも難しいと感じるので、回覧板で本がわかるところをとても助かります。1ヶ月に1冊くらいのペースで読んできたらうれしいです。
親子読書de回覧板 感想 (3)年 お子様の名前 ()
読者の回覧板はとても良いと思います。日曜子供や自分自身にはない本に出会うきっかけになりました。今後も子供のコミュニケーションを大事に楽しむと思います。
回覧する本のおすすめの本があれば、書いてください。(じぶんのことはおしゃらダメ!)
親子読書de回覧板 感想 (6)年 お子様の名前 ()
昨年も読書回覧板があり、回ってきた時はこんな回覧板とても良いなと思いました。日曜選(はな)いような本に出会うとお友達のおすすめ度なども分かったので、楽しく本を読めました。
回覧する本のおすすめの本があれば、書いてください。(あなたがたのき)

本をひらいて広い世界へ



令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	三根西小学校	児童数 196 人
-----	--------	-----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	一読一会 心を動かす本との出会いを求めて
宣言	取組期間	令和7年(2025年) 4月21日 ~ 令和7年(2025年) 年 11月30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

	取組人数	196 人	実施日数	224 日	読書冊数	13380 冊	連携した団体数	2 団体
評価	取組内容(概要)	(お昼の放送の時間に、級外の先生による本の紹介) (放送委員会による絵本のリレー読書) (先生のおすすめの本の福袋) (三養基地区の学校司書のおすすめの本の福袋) (一度も借りられていない本コーナー設置) (保護者の方のおすすめの本紹介) (各学年おすすめ30選・町立図書館おすすめ30選) (百人一首を覚えよう)						
	工夫したこと	(おすすめ30選と普段借りられていない本は、読書の秋キャンペーン中に、プラス1冊貸し出しにする。) (福袋は、「プラス貸し出し券」「しおり引換券」を本の中に隠して貸し出し) (保護者の方の本のPOP) (普段借りられていない本は、テプラで涙マークシールを貼って本をアピール)						
	取り組んだ感想	プラス貸し出しに取り組んだことで、普段借りられていない本も、貸し出しきて、おすすめ30冊を借りる児童も増えました。先生おすすめの本の福袋効果も高く、特に5年生の男子の貸し出しが昨年度より伸びました。						
	今後の取組予定 (令和7年(2025年)1月 ~令和8年(2026年)3月)	級外の先生によるお昼の放送の本の紹介1月と2月に予定しています。3学期に百人一首大会開催し新春図書館おみくじや本の福袋も冬の本シリーズで福袋を予定しています。点字しおりも、3月まで昼休みに行います。						

※本報告書は簡潔に記述し、A4サイズ2頁以内とし、取組内容が分かる資料(写真、イラスト、取組前後の比較データ等)をA4サイズ3頁以内にまとめて、添付してください。

報告書・資料の様式はWordを基本とし、他形式も可としますが、一度にメール添付できる容量は5MBまでですので、これを超える場合は、佐賀県まなび課までご連絡ください。

※県のホームページに掲載しますので、写真等は、「個人が特定できないもの」または「本人の了承を得ているもの」をお願いします。

III.応募する【提出期限:令和7年(2025年)1月12日(金)】

実践報告書は、データ(Word版)で佐賀県まなび課まで電子メールにより送信してください。

【三根西小学校の取り組み】

①級外の先生によるお届の放送時の本の紹介

1週間5人の先生で、季節にあった本を紹介しています。「続きは図書館で」のフレーズを必ず入れることで、図書館に本を借りにきてくれる児童が増えました。学期ごとに1回ずつ行う予定です。



(級外の先生は、校長先生・教務主任・図書主任・養護教諭・学校司書)

②放送委員会による読み聞かせリレー

10月のお届の放送の時間に、放送委員会と図書館とのコラボを実施

「読み聞かせリレー」は1週間で1冊の本を読んでいき、3冊の本を読みました。読まれた本は、図書館内にコーナー展示しました。



「ぽんぽんやまの月」 あまん きみこ 著

「きつねとぶどう」 坪田 譲治 原作 いもとようこ 著

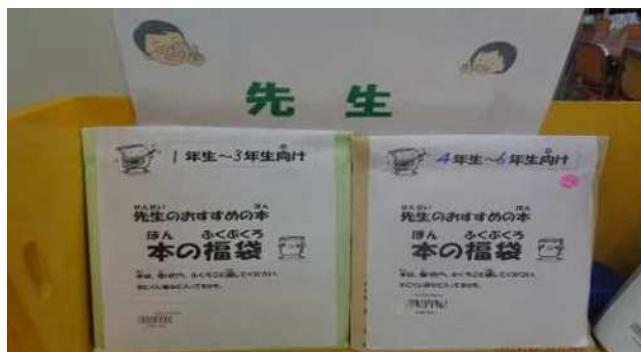
「ねずみのすもう」 いもと ようこ 著

読まれた本
3冊です

③先生のおすすめの本

1学期・2学期「先生方のおすすめの本」を紹介しました。おすすめの本は、図書館前の廊下に掲示して紹介し、本の福袋にして貸し出しました。福袋には、プラス貸し出し券やしおり引き換え券をランダムに入れました。

2学期は、1年生～3年用 4年生～6年生用に袋を分けています。



福袋は、とても好評のよう
です。展示コーナーに置く
と、すぐ無くなります。

④図書館まつり

年2回図書館まつりを行っています。今年度は、図書館クイズ・スタンプカード・人気本ベスト5・図書委員による読み聞かせ・しおりコンクール・点字体験 「●シールで自分の名前をはってオリジナルしおりを作ろう」を実施。



点字一覧表は所蔵図書「楽しくおぼえようはじめの手話と点字」のさわっておぼえる点字シートを見ながら作成。●シールは、「カラーラベル円型（細小）サイズを使用しました。参加した児童は、展示シートを見ながら、楽しんで作成していました。好評でしたので、3月まで、しおり体験を続ける予定です。

⑤図書館まつり景品



今年の景品は、町のキャラクターの御守りです。学校で使わなくなった名札をリメイクしました。読書運・スポーツ運・交通安全などあります。子ども達に大好評でした。



図書委員会の児童から、自分達で作成した折り紙作品も景品にしたいとの希望があったので、これも景品の1つにしました。

⑥保護者の方のおすすめコーナー

保護者の方にも、本の紹介をお願いし、本のPOPや紹介文を書いてもらいました。本をアピールする効果は大きく、児童の目に留まっていました。



⑦ 展示コーナー



「1年生に3年生のおすすめの本を紹介しよう」という3年生の国語の取り組みで、展示コーナーを設けました。



今まで1度も「借りられたことのない本」に涙マークのシールをつけて、紹介しました。プラス1冊貸し出ししたことで、関心が増し、「借りられたことのない本は、子どもたちと本が出会うきっかけとなりました。

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	みやき町立三根中学校	児童数 173人
-----	------------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	読書を習慣づけ、本をたくさん借りよう
	取組期間	令和7年(2025年) 4月 1日 ~ 令和7年(2025年) 11月 30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

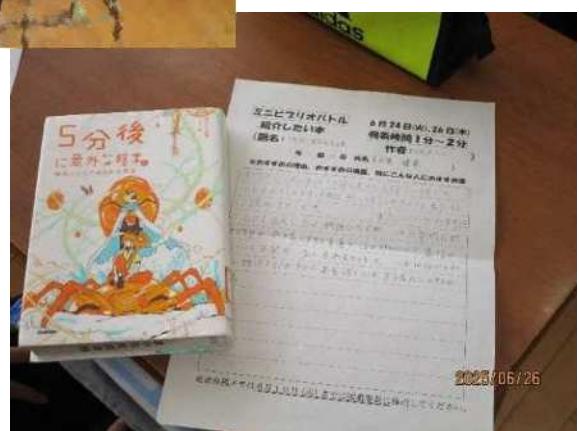
II.取組後の評価

評価	取組人数	173人	実施日数	244日	読書冊数	4276冊	連携した団体数	0団体
	取組内容(概要)	生徒会の図書部を中心に、朝読書週間の徹底、夏休み期間の読書の推進、などの活動を行った。また、図書館の利用方法について周知したり、返却期限を守るよう促したり、と全校生徒がよりよく図書館を利用できるような活動をした。						
評価	工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> 4月の生徒会オリエンテーションの時間や給食の時間を使って、図書部が図書館の利用についてのスライドを作成し、説明した。 5月に、図書委員や先生方におすすめの本を紹介してもらい、昇降口に展示した。 6月に、図書部主催のミニビブリオバトルを開催した。 <p>実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 期間を設けて、朝読書の時間を利用して自分で選択した本を読んでもらう。 ワークシートを用意し、面白かったところ、おすすめしたい理由などを記入する 各クラスの中で、朝読書の時間を利用して、4人から5人グループでミニビブリオバトルを開催。(グループ内でおすすめの本を紹介し合う) グループの中で1番よかった人を決め、代表者によるビブリオバトルを開催。各クラス投票で、1番おもしろそうな本を決める。 各クラスで選ばれた本を図書館だよりで紹介。図書館にコーナーを作って紹介。 9月・10月に、文化発表会に合わせて、POPコンクールを開催。一人1枚お気に入りの本でPOPを書いてもらい、文化発表会で展示して投票。金・銀・銅賞を決定。 11月に、図書委員で本に関する豆知識クイズを作成し、図書館で配布。図書館への来館を促進した。 						

取り組んだ感想	<ul style="list-style-type: none"> ・おすすめの本やビブリオバトルで紹介された本を、昇降口や図書館の目立つ場所に展示することで、生徒が興味を持ち、本を選ぶ一つの手段となった。 ・ビブリオバトルは、2年前より行っており、プレゼンテーション能力も高まり、生徒も興味を持って聞くことができた。 ・本に関する豆知識クイズは、今年度新たな取り組みであり、図書館に来る生徒が増えていた。
今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ～令和8年(2026年)3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から、3月にボランティアによる図書館の掃除、本の整理整頓の期間を設けている。昼休みを利用して、本棚の整理や棚の拭き掃除などを行う。

活動の様子

ビブリオでの写真



図書館の展示の様子



POPコンクール



～ビブリオバトル～

お気に入りの本を紹介し合い、皆の投票によって「チャンプ本」が決まりました。

※チャンプ本とは：最多票を集め、一番読みたくなった本

【1-1】



さん

ざんねんないきもの辞典
おもしろい!進化のふしぎ

(下田文恵、横永明子 著・高橋書店)

【1-2】



さん

3分後にソッとする話
47都道府県の怖い話

(佐木伸一郎 著・理論社)

この本のおすすめは、「おもしろさ」と「ざんねんさ」がマッチして楽しくなるからです。他には生き物について皆さんにもっと知ってもらいたいからです。

この本のおすすめは、内容がわかりやすいからです。ある程度のところで改行してあるので、読んでいる所が迷子になることもありません。そして、フォントもまるで誰かが筆で書いたような文字なので、より懐かを感じることができます。

【2-1】

確率

さん

ニュートン式超図解最強に面白い!
確率

(今野紀雄 著・ニュートンプレス)

この本のおすすめは、書が自分に落ちる確率やサバに食べられる確率など、どれかいつかはあつた確率があつたり、ギャンブルなどのものや生活で使える便利なものもあっておもしろいです。

【2-2】



さん

54字ノ物語 200
超短編小説で読むいきもの図鑑

(氏田雄介 著・PHP研究所)

この本のおすすめは、54字の短い小説と解説が書いてあるとても想像力がはたらく本で、「想像力をはたらかせながら本を読みたい」「あまり長い小説は読みたくない」という人たちにぜひ読んでみてほしいです。

【3-1】



さん

世界一美味しい煮物の作り方
家メシ食堂ひとりぶん 100レシピ

(はらべこぐり著・先文社)

この本のおすすめは、いろんな料理の作り方がのっていて、この料理を作りたい!って時に参考になります。特に時間がない!って時や料理するのめんどくさいって時に料理する人におすすめです。

【3-2】



さん

ふしぎ転婆子屋銀天堂
(廣嶋玲子 著・健成社)

この本のおすすめは、お菓子の使い方したいで、その人の人生が大きく変わってしまうという所です。正しい使い方をすれば、良い効果を、逆に悪い使い方をすれば副作用を受けてしまいます。お菓子を受け取った人がどのようにその力を使うのかという所がこの本の良い所です。ぜひ読んでみてください。

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	弘学館高等学校	児童数 260人
-----	---------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	読書会で本を読み終わってから参加する人の人数を増やす
	取組期間	令和7年(2025年) 6月 23日 ~ 令和7年(2025年) 年 11月 30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	実施日数	読書冊数	連携した団体数
取組内容(概要)		年に2回行われる読書会の、課題本の読了率を上げる。 〔高校2年生〕自分たちで本を選んだ。 〔高校1年生〕課題本を国語の授業で扱ってもらった。		
工夫したこと		課題本の読了率を上げるため、朝にある10分間の読書時間を利用するよう呼び掛けた		
取り組んだ感想		●生徒が本を読む時間がある時期に読書会を開くことが重要だと痛感した。 ●全体的な傾向として、日頃から本を読む人が課題本を読み、本に関心を持たない生徒は課題本を最後まで読みきれなかった。		
今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ~令和8年(2026年)3月)		●これまでの読書会に加えて、本が好きな有志のみを集めた読書会を開催するのも良いかもしれません。		

※本報告書は簡潔に記述し、A4サイズ2頁以内とし、取組内容が分かる資料(写真、イラスト、取組前後の比較データ等)をA4サイズ3頁以内にまとめて、添付してください。

報告書・資料の様式はWordを基本とし、他形式も可としますが、一度にメール添付できる容量は5MBまででするので、これを超える場合は、佐賀県まなび課までご連絡ください。

※県のホームページに掲載しますので、写真等は、「個人が特定できないもの」または「本人の了承を得ているもの」でお願いします。

III.応募する【提出期限:令和7年(2025年)12月12日(金)】

実践報告書は、データ(Word版)で佐賀県まなび課まで電子メールにより送信してください。

1、取組内容

〔高校2年生〕

活動：自分たちで本を選んだ。

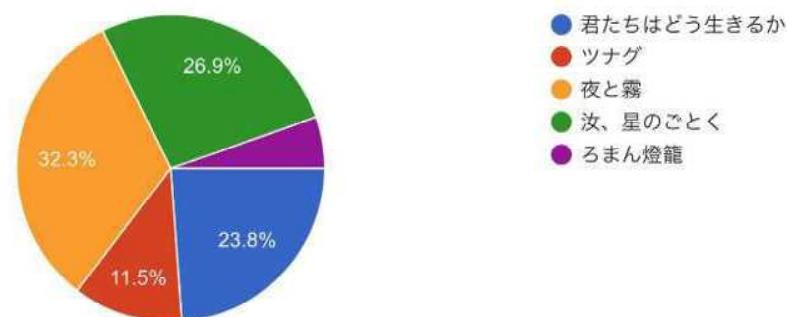
意図：「自分たちで課題本を選んだ」、という意識を持たせることで、読了率の増加を図る。

①図書委員が読書会課題本の候補を選んだ。

②その候補を5作品まで絞り、高校2年生にアンケートをとった。

〈候補作品〉

- ・『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎 (教養)
- ・『ツナグ』 辻村深月 (感動ファンタジー)
- ・『夜と霧』 V.E.フランクフル (ノンフィクション)
- ・『汝、星の如く』 凪良ゆう (恋愛青春)
- ・『ろまん灯籠』 太宰治 (短編集)



その結果、最も多かった『夜と霧』が課題本に選ばれた。

〔高校1年生〕

活動：読書会までに、国語の授業で課題本『海と毒薬』を扱ってもらった。(課題本は例年通り担任の先生が選んだ。)

意図：授業中に本を取り上げることで、自分から勧んで課題本を読もうと思わない人も、課題本に関われるようにする。

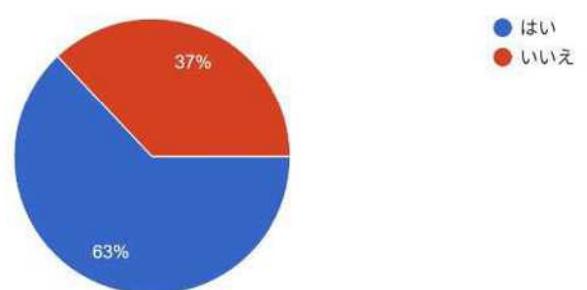
2、取組前後のアンケート結果の考察

(1) 読了率の変化

第一回読書会における高校生の課題本読了率

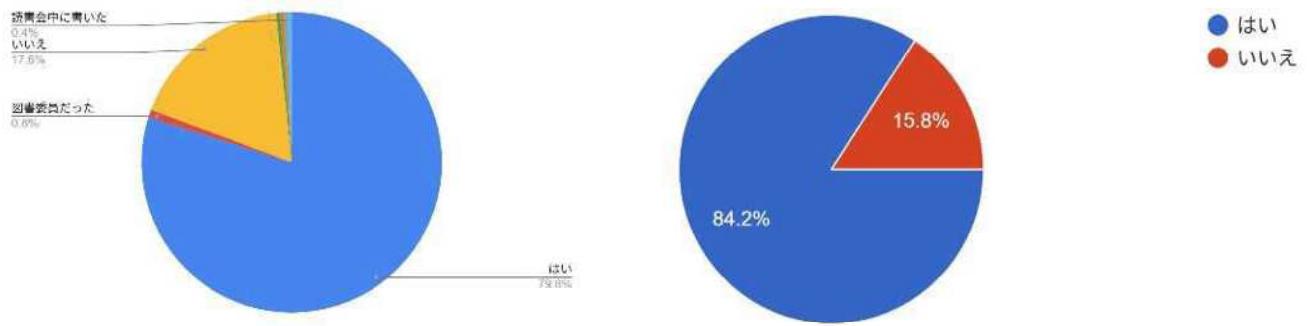


第二回読書会における高校生の課題本読了率



上記のグラフから、読書会までに本を読み終えることができた人が58%から63%に増加した。〈討議の柱を全て記入できましたか〉

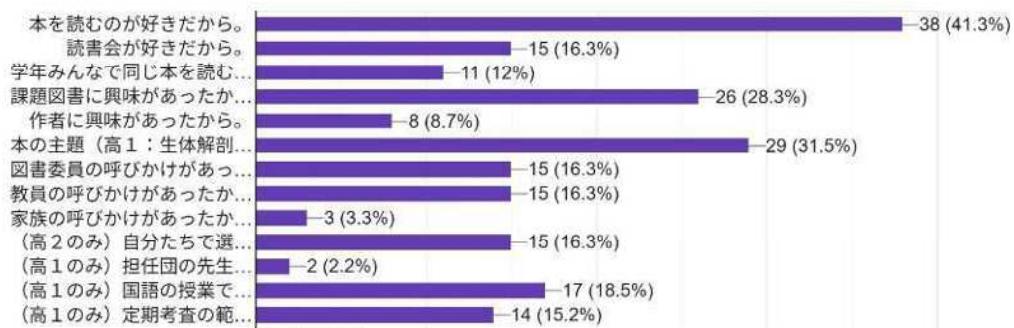
(2) 討議の柱記入率の変化



上のグラフから、読書会前に討議の柱をすべて記入した人は79.8%から84.2%と増えた。

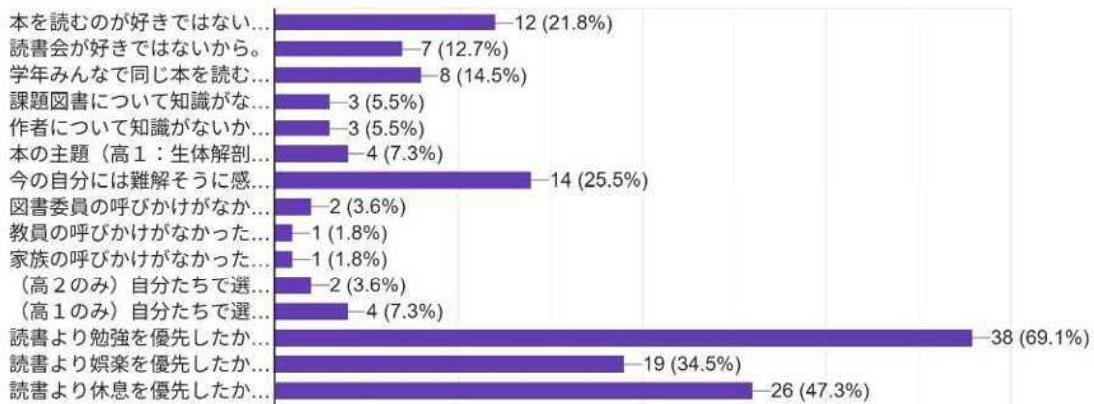
(3) 読了率の変化の要因

〈本を読み終えた理由のアンケート結果〉



上のグラフから、「本を読むのが好きだから」が41.3%で最も多く、次に「課題図書に興味があったから」が28.3%となった。学年別に見ると、高1は本の「主題に興味を持ったから」が31.5%と高かった。一方、高2は「自分たちで選んだから」と回答した人は16.3%と、それほど多くなかった。

〈本を読み終えなかった理由のアンケート結果〉



上のグラフから、「読書より勉強を優先したから」が69.1%で最も多く、次点の「読書より休憩を優先したから」47.3%に大きな差をつけていた。第二回読書会は定期考査の一週間前だった。

また、双方の読書会にて下記の意見がでた

・良かった点 「スムーズに終わった」 「いろんな人の意見が聞けた」 「班の人と一緒に意見を出し合ってまとめられた」 「みんなで話し合えた」「意見を知れた」 「濃い内容のディベートができた」	改善点 「少しうるさかった」「少し騒がしい」 「話し合う時間を増やす」 「みんなが発言できるようにしてほしい」 「討議の柱を書いていない／本を読んでいない人が多かった」
---	--

・その他(図書室への意見)

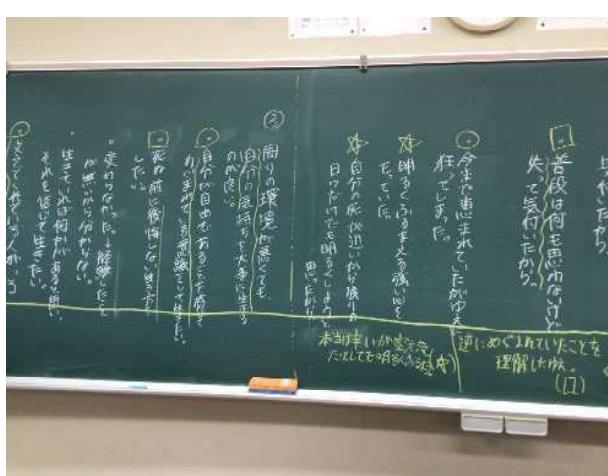
「デジタルでも貸し出しして欲しい」

→この意見を受けて学校配布のタブレット端末を用いて青空文庫(<https://www.aozora.gr.jp>)に入れるようにした

5、総括と今後の展望

- 生徒が本を読む時間がある時期に読書会を開くことが重要だと痛感した。
- 全体的な傾向として、日頃から本を読む人が課題本を読み、本に関心を持たない生徒は課題本を最後まで読みきれなかった。
- これまでの読書会に加えて、本が好きな有志のみを集めた読書会を開催するのも良いかもしれない。

以下は第二回読書会の様子



令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	東唐津小学校	児童数 59 人
-----	--------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	ひがしつ子みんなで楽しく読書！
宣言	取組期間	令和7年(2025年) 4月 1日 ~ 令和7年(2025年) 年11月30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数 実施日数 読書冊数 連携した団体数	59 人 244 日 5,681 冊 1 団体
評価	取組内容(概要)	①委員会活動の常時活動を『しっかり仕事を合言葉』に頑張る。 ②委員会活動を盛り上げ、図書館まつりをみんなで楽しむ。 ③季節の飾りと図書室の利用促進を図る
評価	工夫したこと	①委員会活動で取り組みを改善したこと ②図書室内の環境整備で改善と工夫をしたこと ③机の配置も児童が使いやすいように、夏季休業中に配置替えをした。 ④配架についても、低学年の児童が手に取りやすいように、ちいさな絵本をテープルに置いて手に取りやすくした。 ⑤掲示板と図書室内には、季節飾りをして環境を整えた。

取り組んだ感想	<p>昨年度2月から児童は委員会活動を継続していた。4月から図書室の担当職員が代わり、今年度は前年度の流れを引き継ぐ形で活動を続けた。常時活動となつてゐる日替わりでのカウンター当番と、昼休みの利用者を増やすための日々のクイズを継続している。『しっかり仕事を合言葉』に児童はたいへんよく頑張っている。</p> <p>今年度は、課題も多くみられた。委員会の年間(各月)の活動目標と内容がなかつたので、イベント月以外の取り組みがなかなかできずに、常時活動が中心の活動となつてしまつた。また、新しいことに取り組むことに難しさを感じており、今まで通りのイベント内容であった。</p> <p>そのような活動内容となつてしまつたが、図書室自体は環境をととのえ、蔵書の整備も完了した。そのような変化に児童はとても敏感に反応をし、「とてもきれいになつた」と改善された図書室を毎日利用している。また、小さな絵本の配架場所を変えたことと机の配置を変えたことで、とても使いやすくなつた。さらに、高学年の児童も小さな絵本を手に取つて懐かしいと借りていく児童が多く見られた。</p> <p>図書館まつりのイベント内容も、大幅な変更はなく実施をした。だが、児童と一緒に作った参加賞のしおりが、イベント期間はもちろんイベント後も大人気となつた。制作過程がとても簡単で、低学年の児童にも作ことができること、色の組み合わせと長さを変えていけること。と作る時も使う時にも、楽しさがあるしおりだ。仕上げは、ラミネート加工ではなくブッカーをかけており破れず、固くないので安全である。</p> <p>児童と一緒に制作するという取り組みを委員会活動に取り入れていくと、もっと児童主体の委員会活動がより良いものになるのではないかと考える。</p>  <p>①色画用紙の切れ端を編んで作ったしおり。 低学年の児童も簡単に制作することができた。</p>
---------	--



②図書館まつりで使った竿と魚

児童が描いた魚。大きいものから小さいものまでとてもカラフルな色で作られている。



③図書館まつりで児童が作ったしおり（低学年）

自分が選んだ画用紙の台紙に、シールを貼ったもの。
シール帳を持参した児童も多く、大満足の完成だった。

今後の取組予定
(令和7年(2025年)12月
～令和8年(2026年)3月)

2月から4年生と5年生による委員会活動となる。新しい取り組みも取り入れて、年間の目標と、活動内容をきちんと設定し、全校に周知していきたい。小規模校であるが、読書数は10,000冊程と読書活動を楽しんでいる。これからも読書活動を通して『ひがしち子』の心を育んでいく。

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	鳥栖市立鳥栖北小学校	児童数 747人
-----	------------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	読書に親しもう
	取組期間	令和7年(2025年) 10月 1日 ~ 令和7年(2025年) 年 11月30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	747人	実施日数	61日	読書冊数	18,587冊	連携した団体数	2団体
	取組内容(概要)	行事ごとが重なる時期に、「図書館まつり」を開催したり、1人3冊貸出にしたりする。図書館まつり・・・しおりコンクール、スタンプラリー(低・中・高)、読書クイズ、お話会(PTA主催)大型紙芝居、エプロンシアター、人形劇、本のクイズとりこさん号(市立図書館)による月1回訪問貸出						
	工夫したこと	・図書館活用の機会が増えるように、図書館まつりの参加は、20分休み、昼休みに限定することで、児童同士の交流につなげたこと。参加賞などの賞を設けることで、参加意欲につなげた。						
	取り組んだ感想	授業中の活用だけでなく、休み時間にも図書館に足を運ぶ機会をつくるのに有効であった。クイズの内容が本を読まないと分からぬものが多かったため、貸し出し中のために、クイズに参加できないという状態にもなっていたため、クイズの中身については、誰もが図書館に足を運べば、分かるものにする必要があった。 他の団体と連携することで、読みたい本の幅が広がつていった。						
	今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ~令和8年(2026年)3月)	通常貸出、季節の本の展示、次年度に向けての教科書関連図書の年間計画						

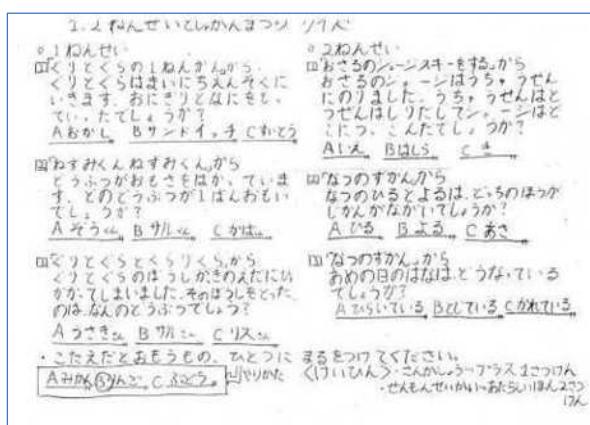
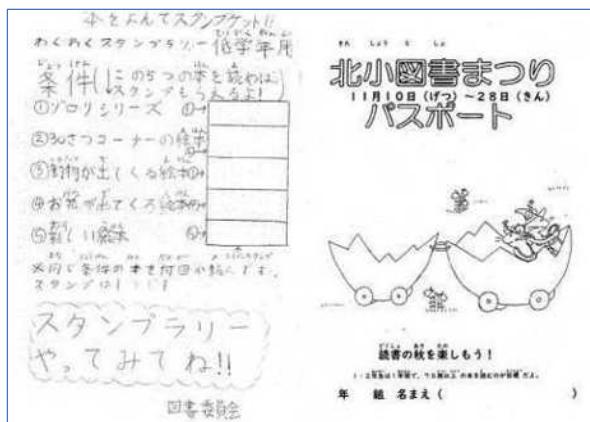
※本報告書は簡潔に記述し、A4サイズ2頁以内とし、取組内容が分かる資料(写真、イラスト、取組前後の比較データ等)をA4サイズ3頁以内にまとめて、添付してください。

報告書・資料の様式はWordを基本とし、他形式も可としますが、一度にメール添付できる容量は5MBまでですので、これを超える場合は、佐賀県まなび課までご連絡ください。

※県のホームページに掲載しますので、写真等は、「個人が特定できないもの」または「本人の了承を得ているもの」をお願いします。

III.応募する【提出期限:令和7年(2025年)12月12日(金)】

実践報告書は、データ(Word版)で佐賀県まなび課まで電子メールにより送信してください。



低学年向け図書館まつりパスポート



しおりコンクール入賞者の掲示



お話しの様子



とりこさん号 移動図書館

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	伊万里市立山代中学校	児童数	89人
-----	------------	-----	-----

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	生徒が本に親しみを持つ。生徒が行きたくなる図書室づくり。
	取組期間	令和7年(2025年) 4月 7日 ~ 令和7年(2025年)年11月30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	105人	実施日数	238日	読書冊数	1401冊	連携した団体数	2団体
	取組内容(概要)	<p>宣言目標の設定意図: 読書の量に捉われず、まずは本に親しみを持ってもらいたいと考えたため。</p> <p>①ぶっくん(3週間に1回) 伊万里市民図書館のぶっくん(移動自動車図書館)に来校いただき、 クラス単位または個人での貸し出しをしていただいている。</p> <p>②読み語り(読み聞かせ)(3週間に1回) 地域のボランティアにお越しいただき、朝の15分間に本を読んでいただいている。</p> <p>③としょしつだより(月1回) 行事やイベントのお知らせ、新刊の紹介などをA4用紙1枚分にまとめ、配布・掲示している。</p> <p>④読書紹介 生徒自身が読んだ本を読書ノートに記録し、朝の時間にクラスのみんなに紹介している。</p> <p>⑤読書推せん文コンクールへの応募 お気に入りの1冊の推薦文を書いてコンクールへ応募した。</p> <p>⑥ブックカバー作成講座(随時) 昼休みに生徒へ透明ブックカバー作成講座を実施している。</p> <p>⑦季節毎の飾りや展示(随時) 季節毎の本の展示や飾りつけをしている。</p> <p>⑧先生たちの推し本(お勧めの本)紹介 先生たちの推し本をとしょしつだよりと図書室展示コーナーで紹介している。</p> <p>⑨図書室の環境整備 快適に心を落ち着かせて過ごせるように常に整理整頓。</p>						

工夫したこと

- ①ぶっくん
当番の生徒にクラスの人数分を選書してもらった。図書室に無い本や話題の本をお借りするために事前にリクエストを出すこともあった。
- ②読み語り
その後の読書へ繋がるように読んでいただく本を本校の蔵書からも選書してもらい、蔵書があることを生徒にも伝えて頂いた。

	<p>ボランティアの方とグループラインで情報共有と連絡を取り合った。</p> <p>③としょしつだより</p> <p>図書室の決まりやイベントのお知らせの他、本のリクエスト募集、新着本や話題になっている本・お勧めの本を紹介した。紹介された本やリクエストした本を求めて図書室に来る生徒もいて、図書室への来室へ繋がった。</p> <p>④読書紹介</p> <p>朝の読書の時間に、生徒が夏休み中に読んだ本の中から2冊をクラスで紹介した。それぞれのお勧めポイント等を発表した。普段読まないようなジャンルの紹介もあり読書の幅が広がる機会となった。</p> <p>⑤読書推せん文コンクールへの応募</p> <p>読書量にこだわることなく、生徒に心の支えとなるお気に入りの1冊を見つけてもらいたいという思いで、読書推せん文コンクール(博報堂教育財団主催)への応募を促した。</p> <p>生徒にお気に入りの1冊を見つけてもらい、その本を特定の誰かに勧める文章を書いた推せん文をコンクールに応募した。</p> <p>⑥ブックカバー作成講座</p> <p>自分で簡単にできて、本の表紙のデザインを損なわない透明のブックカバーを作成した。</p> <p>カタログ等が届く際に使われているフィルム状の袋(通常は捨てられている)を使用した。</p> <p>⑦季節毎の飾りや展示</p> <p>図書室が楽しくなるように季節毎に折り紙で飾り付けをした。図書室に愛着を持ってもらうことを目的として、飾りの一部は生徒と一緒にして図書室に来ることを楽しんでもらった。</p> <p>季節毎の本の他、課題図書をはじめ本屋大賞受賞本や話題になっている本、中学生に読んでもほしい本を展示した。</p> <p>⑧先生たちの推し本紹介</p> <p>先生たちに、推し本(お勧めの本)とその本を勧める理由のアンケートに協力していただいて、としょしつだよりと図書室展示コーナーで紹介した。</p> <p>⑨図書室の環境整備</p> <p>心が落ち着く図書室になるようにと、整理整頓を徹底した。カウンターに置いてあった大量の文房具等を引出しに収納し、カウンターには必要以上に物を置かないようにした。その結果、生徒も図書室を大切に利用することを心がけ、本棚が乱れていることに気づいたらその時点ですぐに整頓してくれるようになった。</p>
取り組んだ感想	<p>④や⑤の取組によって、読書量にこだわらず1冊の本をよりしっかり読もうとする姿勢を感じられた。⑧読書の幅を広げる機会となっただけでなく、先生たちの思いを受け取ったようだった。誰がどういう本を読んでいるのかを知ることで、その人の人柄や思いを受け取ることができること、読書を通じて新しい世界や考え方、視野が広がることを感じたようだった。</p>
今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ～令和8年(2026年)3月)	<p>・12/19 図書まつり…クリスマス会を兼ねて、しおりコンテスト・bingo・本探し等を行い、来館者数を増やす。</p> <p>・命の文庫の充実…17年前に在職中に亡くなられた校長先生とご遺族の意思をしっかり後世に受け継ぐために、命・優しさ・思いやり・友達をテーマにした本を選書中。命の尊さと人の温かさを感じられるようにしていきたい。</p>

①ぶっくん



②読み語り



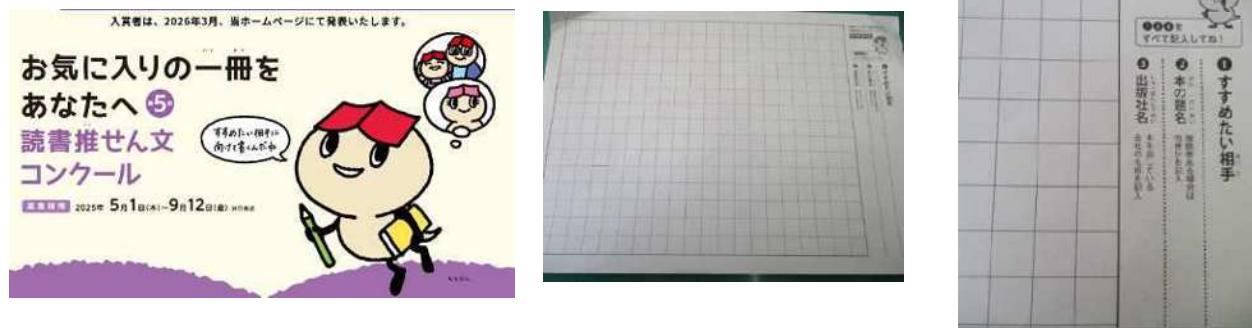
③としょしつだより



④読書紹介



⑤読書推せん文コンクールへの応募



⑥ブックカバー作成講座

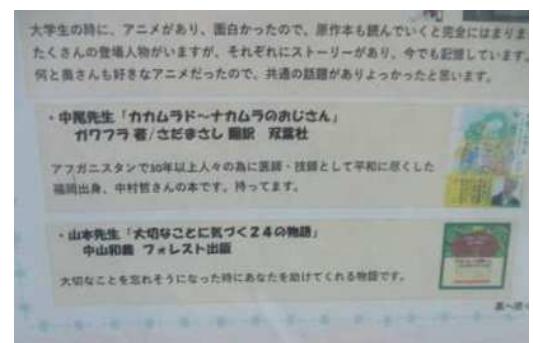


⑦季節毎の飾りや展示





⑧先生たちの推し本紹介



⑨図書室の環境整備



今後の取組予定



令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	武雄市立 北方小学校	児童数 297人
-----	------------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	「かしこく やさしく たくましく ふるさと愛する北方っ子の育成」のため、実りある読書活動を推進する。
	取組期間	令和7年(2025年) 4月 8日 ~ 令和7年(2025年) 年 11月 30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	297人	実施日数	237日	読書冊数	34,862冊	連携した団体数	2団体
	取組内容(概要)	①朝の読書 ②毎週水曜日の読み聞かせ(担任、人権擁護団体、上学年) ③読み聞かせサークルを招いての「読み語り会」(1~3年対象) ④代表委員会で議題にし、全校での取組を検討 ⑤図書館祭りの開催 ⑥6年総合的な学習の時間での取組(本校めざす児童像を柱として)						
	工夫したこと	○全校で取り組むことができる活動を多く取り入れたこと。 ○異学年交流を取り入れたこと。 ○本校の「めざす児童像」に関わらせながら活動を計画したこと。 ○外部との交流も取り入れたこと。						
	取り組んだ感想	○朝の読書(朝8時00分~8時10分)を徹底することで、全校が落ち着き、静かに朝を迎えることができるようになった。 ○代表委員会の議題に、読書に関する取り上げたことで、読書に対する児童の意識が高まったと感じる。						
	今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ~令和8年(2026年)3月)	○朝の読書の継続 ○6年総合的な学習の時間での取組の継続 ○毎週水曜日の読み聞かせの継続(武雄市図書館の本の活用)						

※本報告書は簡潔に記述し、A4サイズ2頁以内とし、取組内容が分かる資料(写真、イラスト、取組前後の比較データ等)をA4サイズ3頁以内にまとめて、添付してください。

報告書・資料の様式はWordを基本とし、他形式も可としますが、一度にメール添付できる容量は5MBまでですので、これを超える場合は、佐賀県まなび課までご連絡ください。

※県のホームページに掲載しますので、写真等は、「個人が特定できないもの」または「本人の了承を得ているもの」をお願いします。

III.応募する【提出期限:令和7年(2025年)12月12日(金)】

実践報告書は、データ(Word版)で佐賀県まなび課まで電子メールにより送信してください。

「北方小学校の取組」

北方小学校「教育構想」について

令和7年度 武雄市立北方小学校 教育構想

めざす学校像【学校経営の基本理念】

受けたい授業・行きたい学校・・・・みんながわかる楽しい授業のある学校
安心・安全な学校・・・・・・・・・・・・思いやりと生命を大切にする学校
地域と共にある学校・・・・・・・・・・・・家庭・地域とつながり信頼される学校

学校教育目標

かしこく やさしく たくましく ふるさと愛する北方っ子の育成

めざす児童像「北小 MF12」【 Move Forward :「みんなで前へ」】

かしこい子	やさしい子	たくましい子	ふるさと愛する子
① 楽しんで学習に取り組む子	⑤ 友達や自分のよさを認め仲良く活動する子	⑧ 気持ちのよいあいさつや返事をする子	⑫ 地域の人と楽しく交流し、ふるさと(佐賀・武雄・北方)のよさがわかる子
② しっかり話を聴き、進んで話す子	⑥ 人のために進んで動く子	⑨ 自分や他の人の命を大切にする子	
③ 自分で決めてチャレンジする子	⑦ 感謝の気持ちをもつて「ありがとう」を言う子	⑩ 最後まで粘り強く取り組む子	
④ 進んで本を読む子		⑪ 進んで運動し体をきたえる子	

今年度の重点(十点)方策

1 主体性を高める授業づくり(課題の工夫 自己選択の場 タブレットの活用)	4 いじめの未然防止と早期発見・対応(いじめ防止の授業実践 指導・対応等の共有化 アンケート調査)	6 危機回避能力の育成(防災教室 情報モラル命の授業 多様な避難訓練や外部講師の招聘)	8 サポート授業の充実(人材バンクの整備 体験・交流活動の充実)
2 基礎基本の定着(「朝の時間」の充実 反復ドリル等の活用)	5 自己有用感の向上(学校+家庭での4つのポイントの実践)	7 みんなでチャレンジ推進(県「スポーツチャレンジ」応募 縦割班遊びの活性化)	9 幼保小中連携の充実(1年スタートカリキュラム 情報共有 交流授業の実施)
3 読書の推進(朝読書 読み聞かせ 学年目標図書冊数 図書紹介)			

めざす教師像

- 実践意欲に富み、互いに指導力を高め合う教師
- 子どものよさを認め、心に寄り添う教師
- 地域に耳を傾け、地域教材(もの、ひと、こと)を活用する教師
- 「チーム北方小」の一員として、自分の役割を果たす教師

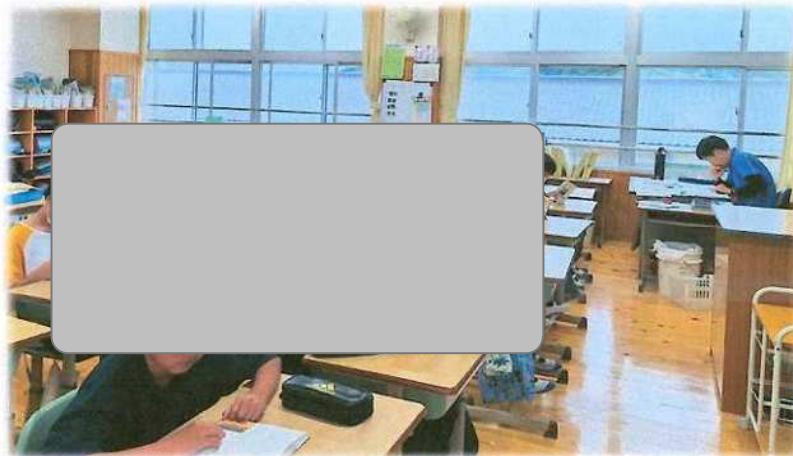
10 教職員の指導力向上と業務改善

(学年経営の重視、目的をもった教育活動の推進)

上記の図は、本校の「令和7年度教育構想図」である。

今年度は、図中の の部分を全校児童、全教職員が意識して、後に記すような活動に取り組んでいる。

①朝の10分間読書タイム（8時00分～8時10分）



担任も一緒に読書を行います。

②毎週水曜日の朝の読み聞かせ



上級生による読み聞かせの様子です。

4年生が1年生を行っています。



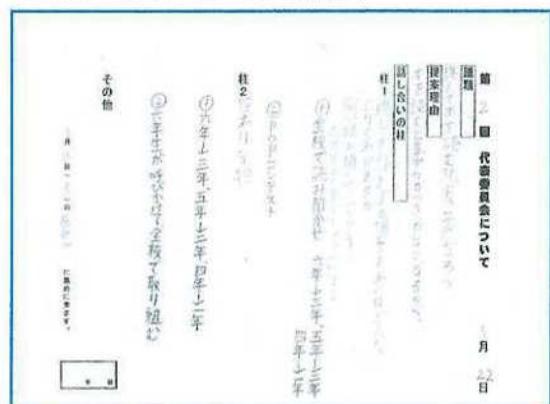
1年担任による読み聞かせの様子です。

③読み聞かせサークルを招待しての
「読み語り会」の開催（1～3年対象）



音楽に合わせて、絵本「えんとつ町のプペル」
を読み語りしていただきました。

④代表委員会で議題として提案
(全校で取り組むことを決定)



「進んで本を読む北方っ子になろう」と
いう議題で話し合いました。

⑤図書館祭りの開催



「しおりコンテスト」を開催しました。
図書室前に掲示しています。



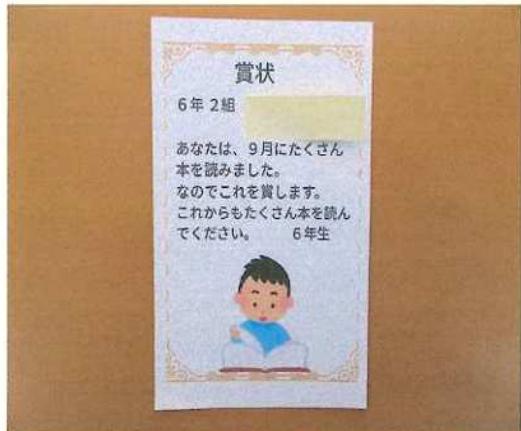
本に親しむための様々なイベントが
開催されています。

⑥6年「総合的な学習の時間」での取組

めざす児童像の4番目「MF4：進んで本を読む子」を柱にした、6年の取組です。

○ポップづくり（図書室掲示）

○多読者への賞状作り（毎月贈呈）



○「おすすめの本」紹介チラシ（6年児童が作成し、全学級に配布）



令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	小城市立晴田小学校	児童数 293 人
-----	-----------	-----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	図書館大好き！読書大好き！この世界にとびこんで、豊かな心情を育てよう
	取組期間	令和7年(2025年) 9月 1日～ 令和7年(2025年) 年 11月 30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	293 人	実施日数	91 日	読書冊数	9745 冊	連携した団体数	1 団体
	取組内容（概要）	<ul style="list-style-type: none">・図書館祭り（bingoカード・読み聞かせ・ぬりえコンテスト・くじ引き）・おすすめの本紹介・地域ボランティアによる朝の読み聞かせ・国語科の授業と図書館の本とのつながり・本の木（100冊・200冊・300冊の木）						
	工夫したこと	<ul style="list-style-type: none">・図書館にあまり足を運ばない児童に少しでも興味をもってもらうような取り組み（bingoやぬりえコンテスト・くじ引き）をした。・発達段階にあったおすすめの本を紹介することで、自分に合った本を選びやすいようにした。・多読児童を読書の木で紹介することで、たくさんの本を読むことに価値づけを行った。						
	取り組んだ感想	図書館祭りや読書週間などを定期的に行うことで、普段は図書館に足が運ばない児童でもその期間は、足を運んでみようとする姿や普段は読んだことのないジャンルの本に手を伸ばす様子が見られた。また、授業と図書館とをつなげることで、本がより身近なものになったように感じた。						
	今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ～令和8年(2026年)3月)	<ul style="list-style-type: none">・読書ノートの活用・読書の木の継続・多読賞の表彰など						

※本報告書は簡潔に記述し、A4サイズ2頁以内とし、取組内容が分かる資料（写真、イラスト、取組前後の比較データ等）をA4サイズ3頁以内にまとめて、添付してください。

報告書・資料の様式はWordを基本とし、他形式も可としますが、一度にメール添付できる容量は5MBまでですので、これを超える場合は、佐賀県まなび課までご連絡ください。

※県のホームページに掲載しますので、写真等は、「個人が特定できないもの」または「本人の了承を得ているもの」をお願いします。

III.応募する【提出期限：令和7年(2025年)12月12日(金)】

実践報告書は、データ（Word版）で佐賀県まなび課まで電子メールにより送信してください。

令和7年度(2025年度)晴田小「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

I. 図書館祭り（bingoカード・読み聞かせ・ぬりえコンテスト）

晴田小学校では、6月と11月に「図書館祭り」を開催している。内容は、図書委員会が中心となって計画・運営し、今年度もたくさんの児童がこの機会に図書館に足を運んでいた。

①bingoカード

歴史やスポーツなど、自分ではなかなか選ばない本にも触れてほしいという願いから、そのジャンルの本を読んだらチェックをいれてもらい、bingoをたくさん作ろうという取り組みを行った。内容も低学年用・中学年用・高学年用と準備し、それぞれの発達段階で読んでほしいジャンルを考え、図書委員を中心に作成した。

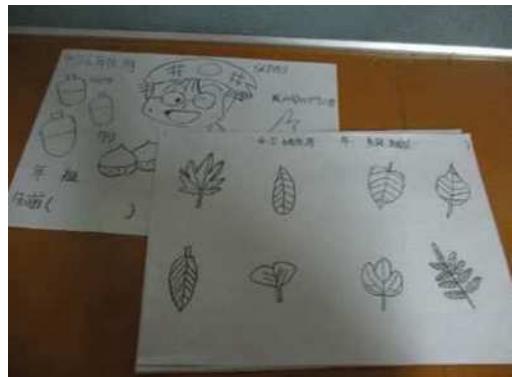


②読み聞かせ

図書委員会の児童が選んだ絵本の読み聞かせを図書館祭り期間中に行った。親しみやすさやテンポのいい本を選んだことで、雰囲気のよい和やかな時間となった。

③ぬりえコンテスト

本を読む読まないに関わらず、まずは図書館に足を運び、図書館に興味をもってもらいたいというねがいから。図書委員が描いたイラストにぬりえをして、それを図書館に提出しに行くという取り組みを行った。児童が好きなキャラクターなどのぬりえを準備することで、まずは取り組んでみたいと思わせる工夫をした。



II. おすすめの本紹介

読書感想文の課題図書の紹介や図書委員会の児童が担当する本棚の設置など、どの本を選んでいいかわからない児童でも手に取りやすいように、本を陳列する場所を設けた。





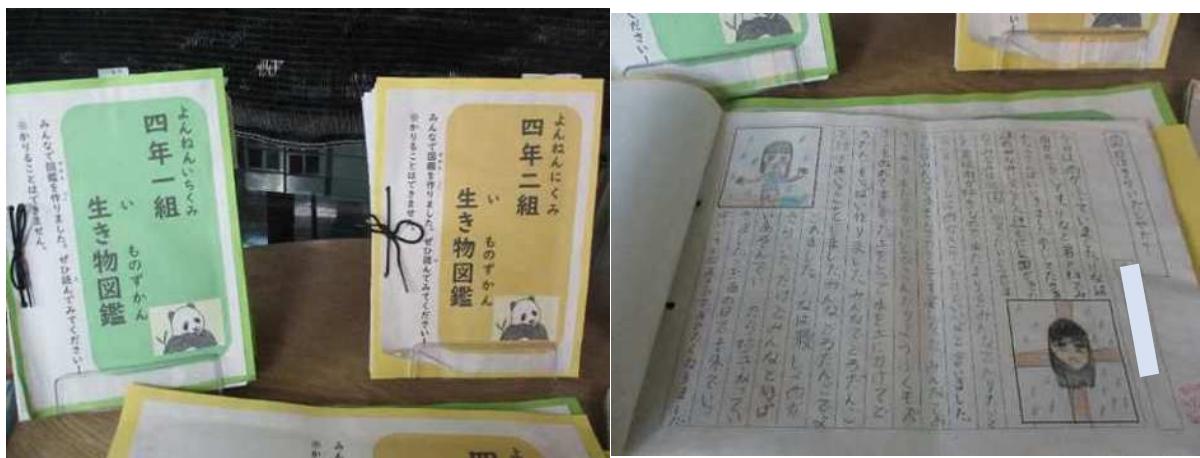
III. 地域ボランティアによる朝の読み聞かせ

毎月1回、地域の読み語りボランティアや職員が選んだ本で、朝の読み聞かせをおこなった。保護者や他学年の職員が行うため、児童は普段とは違う雰囲気で読み聞かせを聞くことで、本の世界に浸ることができた。

	6月16日	7月7日	10月20日	11月17日	12月8日	1月19日	2月16日
1の1	ボランティア	田代先生	小森園長	ボランティア	ボランティア	校長先生	ボランティア
1の2		川原先生	校長先生			小森園長	
2の1		松下先生	藤原先生			白根先生	
2の2			綾部先生			松下先生	
3のA		中野先生	川原先生			眞崎先生	
3のB		市原先生	中野先生			田代先生	
4の1	眞崎先生	山下よ先生	小森園長	ボランティア	ボランティア	ボランティア	藤原先生
4の2	山口え先生	眞崎先生	校長先生				足立先生
5の1	綾部先生	山口え先生	松下先生				市原先生
5の2	藤原先生	綾部先生	市原先生				田代先生
6の1	小森園長	校長先生	山下よ先生				中野先生
6の2	校長先生	小森園長	足立先生				山下よ先生

IV. 国語科の授業と図書館の本とのつながり

本校では、国語科の折に触れ、国語科の授業と図書館とをつないだ授業を行っている。例えば、4年生の「走れ」の学習では、「山場のある話」ということで、本の紹介文を書いて、それを一冊の本のようにしてまとめ、図書館に展示し、どの児童でも手に取って読めるようにした。児童が書いたものなので、他の児童も興味をもってそれを読む姿が見られた。



V. 本の木（100冊・200冊・300冊の木）

年間を通して、100冊達成の木、200冊達成の木、300冊達成の木を準備し、達成した児童の名前が書かれた葉っぱを掲示するようにしている。目標冊数があるとそれを達成しようと意欲が高まり、多くの児童が今年も100冊を達成することができた。



令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	有田中部小学校	児童数 463人
-----	---------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	読書の星空をいっぱいに ～見つけようお気に入りの1冊～
	取組期間	令和7年(2025年) 5月30日～令和7年(2025年)年11月28日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	463人	実施日数	183日	読書冊数	24,685冊	連携した団体数	1団体
	取組内容(概要)	児童が読書を楽しみ、「お気に入りの1冊」を見つけることができるよう、学年相応のおすすめの本を紹介し、①スタンプラリー②放送によるブックトークなどにより読書を推進した。30冊ほどのおすすめの本の中から、自分のお気に入りを見つけ、シールを貼って共有した。						
	工夫したこと	おすすめの本に親しむことができるよう、2学期前半にスタンプラリー企画を実施した。取り組みが継続できるように、2学期の半ばには図書館のイベントに合わせて、図書委員による「おすすめの本ブックトーク」を放送で行った。児童がおすすめの本を読み進めた2学期後半から、「お気に入りの1冊にシールを貼って共有」できるようにした。年間を通して、じっくり読書に取り組めるように工夫した。						
	取り組んだ感想	普段、児童に人気の本の貸し出しが多いが、スタンプラリー企画が始まってからはおすすめの本の貸し出しが増えた。おすすめの本コーナーの本棚が空になるほどであった。読書が好きで、幅広い種類の本が読める児童だけでなく、いろいろな児童にとって読書のきっかけを作ることができたように思う。						
	今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ～令和8年(2026年)3月)	お気に入りの1冊にシールを貼って共有することは3学期にさらにすすめていきたい。						

※本報告書は簡潔に記述し、A4サイズ2頁以内とし、取組内容が分かる資料（写真、イラスト、取組前後の比較データ等）をA4サイズ3頁以内にまとめて、添付してください。

報告書・資料の様式はWordを基本とし、他形式も可としますが、一度にメール添付できる容量は5MBまでですので、これを超える場合は、佐賀県まなび課までご連絡ください。

※県のホームページに掲載しますので、写真等は、「個人が特定できないもの」または「本人の了承を得ているもの」をお願いします。

III.応募する【提出期限：令和7年(2025年)12月12日(金)】

実践報告書は、データ（Word版）で佐賀県まなび課まで電子メールにより送信してください。

読書の星空をいっぱいに ～見つけようお気に入りの1冊～

5月から読書の星空を図書室に掲示し、取り組みを始めました。1年を通して、読書の星空をいっぱいにしてほしい、そしてその中からきらっと光るお気に入りの1冊に出会ってほしい…そんな思いを込めて始めた取り組みです。

「読書の星空」は図書室の出入り口に設置してあります。図書室から出た児童は借りた本との素敵なお会いにわくわくし、図書室へ入るときには次の本への期待と読んだ本への感謝を持ってほしいという思いがあり、設置場所を決めました。学年ごとに星空を用意し、貸し出し冊数に応じて星を増やしていました。11月末時点でもきれいな星空になっていますが、今後さらに満天の星空になっていくことと思います。

4月の読書の星空



貸し出しカウンターの正面にあるため、子ども達も自然と目が行き、「星が増えたね。」「〇年生はたくさん本を読んでいるんだね。」「もっと増やしたいね。」と呟き、意識している様子が伺えました。

星が少しずつ増え…



きれいな読書の星空（3月の満天の星空に期待）



ぱっと見て全校の貸し出し冊数が把握できるので、学級担任が児童への促しを意識するきっかけにもなりました。

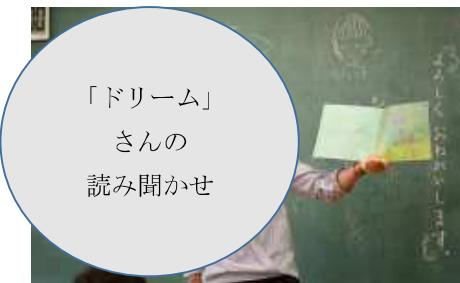
読書ノートで継続を!!



読書ノート

ノートが配られると早速児童は意欲的に記録をしていました。1ページ1ページ埋まっていく達成感もあり、面白い本に出会うと、「先生、この本読書ノートに書くね！」と嬉しそうな顔が見られました。書き終わった児童にはプレゼントがあり、それが他の児童の意欲付けにもなりました。

「ドリーム」さんによる読み聞かせ



「ドリーム」
さんの
読み聞かせ

月に1回程度朝の時間に、クラスごとに読み聞かせに来てくださいます。昔話、民話、季節に関する本、外国の本などさまざまなジャンルの本を児童の発達段階に合わせて選び、読み聞かせを行ってくださいます。読み聞かせを聞いて、その場で感想を伝えあうクラスもありました。

おすすめの本スタンプラリー

教科書掲載の本などを中心に、各学年30冊を「おすすめの本」としました。おすすめの本コーナーを作り、放送で紹介するとともに、2学期にはスタンプラリー企画を行いました。児童の意欲が継続するように、スマールステップで30冊の読書に取り組めるように工夫をしています。また、後述の図書祭りでは、図書委員によるおすすめの本紹介も行いました。30冊の本を借りるのは長い道のりですので、児童の意欲が継続するように「スタンプラリーの実施」「放送によるおすすめの1冊紹介」と時期をずらしながら取り組みました。



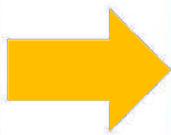
スタンプラリーは5冊読むごとにプラス1冊券のプレゼントがあり、児童の意欲が継続するように工夫しました。



みつけよう！お気に入りの1冊

おすすめの本を読み進めた頃に、お気に入りの1冊を見つけた児童には、シールを貼って紹介してもらいました。「シールを貼って紹介する」という方法にしたので、どの児童も抵抗なく参加することができます。どの本を借りようか…となかなか決められずに迷う児童もいますので、「どの本が人気か見てみようか。」と担任が声掛けするときにも助けになりました。

この取り組みは2学期後半に始めたばかりですので、今後放送で呼びかけ、さらに多くの児童がお気に入りの1冊を見つけて紹介できるようにしていきたいです。



どの本がお気に入りか、ぱっと見て
共有できました。

各学年ごとに、シールを貼っています

アジサイ・コスモス図書祭り

6月と11月に図書祭りを開催しました。

図書委員会の児童が、どんなイベントを開催するとたくさん的人が集まってくれるか・本に親しむきっかけになるか考えながら企画しました。本探しやしおり作りなど学年ごとにイベントに参加できる日を決め、学年に応じた内容を考えていきました。特に「くじ」は大人気で、景品のプラス1冊券を狙ってたくさんの児童が本を借りて挑戦しました。プラス1冊券によって、図書祭りが終わった後も図書室に足を運ぶ児童が増えました。

【イベント内容】

- ・しおり探し
- ・まちがい探し
- ・くじ引き
- ・読み聞かせ
- ・お話を○×クイズ
- ・しおり作り
- など

読み聞かせ

読み聞かせのような、定番のイベントから、しおり探しなどわくわくして参加できるイベントまで、様々な企画を図書委員の児童が考えています。



図書委員による「わたしが選ぶおすすめの1冊」を各学年ごとに選び、ブックトーク形式で放送しました。どのクラスも静かに放送に耳を傾けていました。



くじ引き



図書祭り期間中は図書室利用者が普段の2~3倍!
たくさんのイベントで盛り上がりました。

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	有田町立西有田中学校	児童数 236人
-----	------------	----------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	お気に入りの本を見つけよう！！～わたしの一冊を紹介しよう～
	取組期間	令和7年(2025年) 4月14日～令和7年(2025年)11月30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	236人	実施日数	231日	読書冊数	1640冊	連携した団体数	1団体							
	取組内容（概要）	<ul style="list-style-type: none"> 図書ボランティア「はらべこあおむし」さんによる朝の読み聞かせ 毎月の「図書だより」の発行 「読書リソース活動」（読んだ本のあらすじ紹介、感想、おすすめしたい人をリソースの形の用紙に書いて、月に一度図書室前に掲示。） 光村図書国語の教科書単元と連携した読書活動 1年生 POP作り（図書室に掲示）3年生ブックトーク（本紹介を印刷して掲示） 給食室と連携し、食べ物の絵本との「コラボ給食」の実施（3回） 図書祭りの実施（クラス対抗貸出マッチ） 「読書推せん文コンクール」への応募（2, 3年生） 													
工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> 国語の授業と連携し、本に接する機会を各学年設けた。 図書だよりと給食委員会の献立放送で「コラボ給食」についてお知らせした。 書くことが苦手な生徒が負担を感じないよう、本紹介の文章量は少なめにした。 おすすめの本を紹介し、掲示物として目に見える形にした。 「読み聞かせ」「POP」「推せん文」など、さまざまな本紹介の形をとった。 														
取り組んだ感想	<p>掲示物を見て、図書館に本を借りに来る生徒が増え、貸出冊数が前年度より増加した。（司書に本を尋ねる生徒も増えた。）</p> <p>「コラボ給食」実施後に、関連の絵本を読みに来る生徒が増えた。</p> <p>教科書単元と連携することで、学年に応じた読書活動を推進することができた。</p> <p>また、ブックトークではテーマが決められていたことから、普段手に取らない本も読んでみようとする動きがあった。</p> <p>一定数貸出0冊の生徒がいるので、本に接する機会をもつことを今後も継続していくたい。</p>														

	<p>今後の取組予定 (令和 7 年(2025 年)1 月 ~令和 8 年(2026 年)3 月)</p>	<p>光村図書国語 3 と連携した、中村哲医師の活動と著書「天、共に在り」の紹介展示 中村哲医師と関わりの深い、杉山大二朗さん、杉山龍丸さんの紹介展示 「読書リンゴ活動」の継続</p>
--	---	--

※本報告書は簡潔に記述し、**A4 サイズ 2 頁以内**とし、**取組内容が分かる資料**（写真、イラスト、取組前後の比較データ等）を**A4 サイズ 3 頁以内**にまとめて、添付してください。

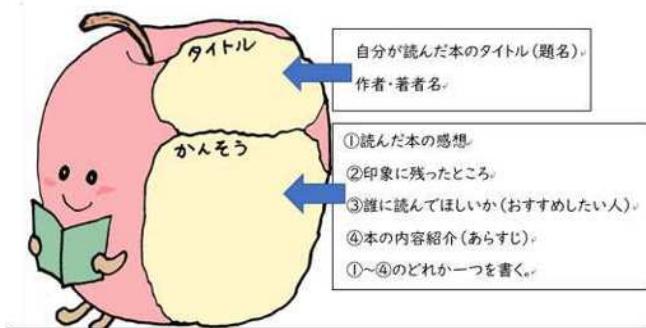
報告書・資料の様式は**Word を基本**とし、他形式も可としますが、一度にメール添付できる容量は**5 MB**までですので、これを超える場合は、佐賀県まなび課までご連絡ください。

※県のホームページに掲載しますので、写真等は、「個人が特定できないもの」または「本人の了承を得ているもの」をお願いします。

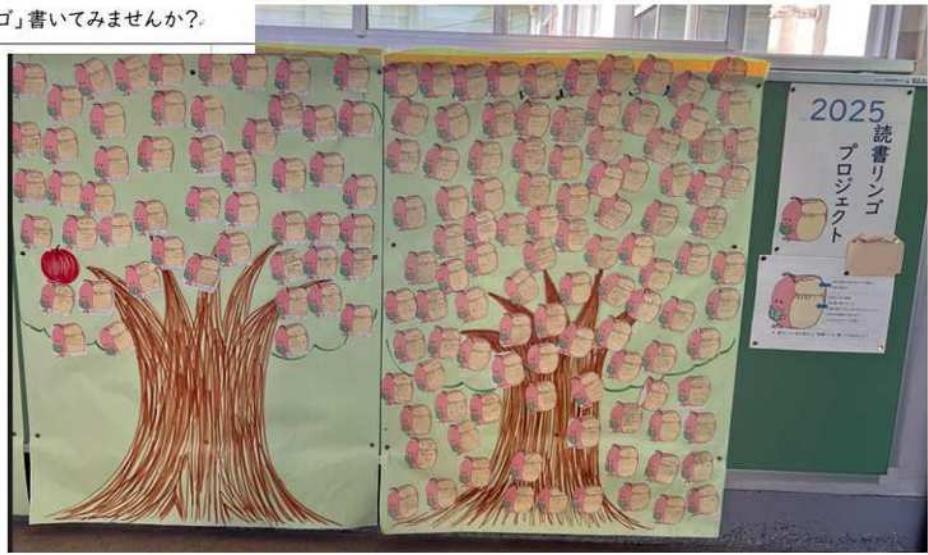
Ⅲ. 応募する【提出期限：令和 7 年(2025 年)1 月 12 日（金）】

実践報告書は、データ（Word 版）で佐賀県まなび課まで電子メールにより送信してください。

「読書リンゴ活動」



* 紹介したい本がある人、「読書リンゴ」書いてみませんか？



1年生 POP 作り



3年ブックトーク



図書祭り(貸出クラスマッチ)



図書だより(毎月発行)と「コラボ給食」のお知らせ

図書だより 11月号

10月の貸出冊数
1,353冊

10月の貸出冊数
1,353冊

11月24日(水)10時~11時
「うどん対ラーメン」

★給食室とのコラボ企画★

わかったさんのスイートポテト

サツマイモ掘りを手伝ったわかったさん。スイートポテトが食べたいというヤーばっちゃんのため、仲間と一緒に走り回ることに!レシピ付き。作家・寺村譲夫の世界を、永井郁子が受けついで物語と絵を描いた新シリーズ。少し早いですか?秋はサツマイモや栗が美味しい季節ですね。食欲の秋ともいいます。レシピ付きなので実際に作ってみてはいかがでしょうか♪

9月1日の給食に登場するよ!お楽しみに♪

給食室とのコラボ企画

第三弾

うどん対ラーメン



「うどんとラーメン、どちらがおいしいか決めようではありませんか?」ある日、うどんの家に、ラーメンから挑戦状が届いた。戦いの末に見えた結果とは...。

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	太良町立大浦中学校	生徒数 57人
-----	-----------	---------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	本に親しみ、たくさんの知識を得て視野を広げる。
	取組期間	令和7年(2025年) 4月 7日 ~ 令和7年(2025年) 11月 30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	57人	実施日数	238日	読書冊数	2605冊	連携した団体数	1団体
	取組内容(概要)	<p>【おすすめの本紹介】 ・おすすめしたい本を生徒や教員に書かせ、図書室前の掲示板に掲示。 【図書館祭り】 ・本集めクイズ／本パズル／図書bingo 【昼休み終了前の読書タイム】 ・月・水・金の5分間読書を行っている。 【読み聞かせ】 ・各学期1回行う。人権擁護委員さんによる人権作文の読み聞かせや地域のボランティアによる絵本の読み聞かせを行った。</p>						
	工夫したこと	図書室に来てほしいという呼びかけだけではなく、読書タイムを取り入れ、掲示物を生徒の作品にすることによって、生徒が自分で本を探して読みたくなるような取り組みを目指した。						
	取り組んだ感想	本を読むことが苦手だと感じている生徒が図書室に足を運ぶ機会づくりとして、様々な取り組みを行ったことは、非常に効果的だったと思う。また、教職員だけでのこのような取り組みを行うのではなく、生徒会の図書委員長を中心に、企画・運営をさせたことで、生徒主体の図書館教育ができたと感じる。						
	今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ~令和8年(2026年)3月)	<ul style="list-style-type: none">・読書タイムは継続して行う。・地域の方による読み聞かせを2月に行う。						

※本報告書は簡潔に記述し、A4サイズ2頁以内とし、取組内容が分かる資料(写真、イラスト、取組前後の比較データ等)をA4サイズ3頁以内にまとめて、添付してください。

報告書・資料の様式はWordを基本とし、他形式も可としますが、一度にメール添付できる容量は5MBまでですので、これを超える場合は、佐賀県まなび課までご連絡ください。

※県のホームページに掲載しますので、写真等は、「個人が特定できないもの」または「本人の了承を得ているもの」をお願いします。

III.応募する【提出期限:令和7年(2025年)12月12日(金)】

【太良町立大浦中学校】令和7年 取り組み内容資料

○図書館まつりの様子



○おすすめの本



○読み聞かせの様子



実践報告書は、データ（Word版）で佐賀県まなび課まで電子メールにより送信してください。